Takara standard

エコキュート
取扱説明書

保証書別添

家庭用自然冷媒CO_2ヒートポンプ給湯機

コントローラ：CMCK-2

給湯専用（給湯温度設定機能付き）タイプ

システム品番	ヒートポンプ品番	貯湯ユニット品番
EQS2009U-NS	THP-MU452-A	EC-2009KU-NS
EQS3709U-NS	THP-MU452-A	EC-3709KU-NS
EQS4609U-NS	THP-MU602-A	EC-4609KU-NS
EQS2009U-NE【耐塩害仕様】	THP-MU452-A-BS	EC-2009KU-NE
EQS3709U-NE【耐塩害仕様】	THP-MU452-A-BS	EC-3709KU-NE
EQS4609U-NE【耐塩害仕様】	THP-MU602-A-BS	EC-4609KU-NE
EQS3709U-KS【寒冷地仕様】	THP-MUK452-A	EC-3709KU-KS
EQS4609U-KS【寒冷地仕様】	THP-MUK602-A	EC-4609KU-KS

※漏水検知仕様は、システム品番・貯湯ユニット品番の末尾に「R」が追加されます。
※BL認定品は、システム品番・貯湯ユニット品番の末尾に「-BL」が追加されます。

このたびは、タカラスタンダード エコキュートをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

◆ご使用前に、この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に、「安全上のご注意」については、ご使用前に必ずお読みいただき安全にお使いください。
◆この取扱説明書はいつでもご覧になれる場所に、大切に保管してください。保証書に販売店名、お引渡し日などが記入されていることを、必ずお確かめください。
◆エコキュートの名称は電力会社、販売メーカーが推奨する自然冷媒ヒートポンプ給湯機の愛称です。

この給湯機は申請により、通電制御型として料金割引が適用されることがあります。ご使用の前に、必ず最寄りの電力会社営業所または据付工事店に確認してください。取替え設置の場合でも、忘れずに確認してください。

もくじ

ご使用の前に

安全上のご注意 …… 2
ご使用にあたってのお願い …… 5
エコキュートの上手な使いかた …… 6
各部の名称と働き …… 7
ご使用前の準備 …… 12
コントローラ設定項目一覧 …… 14
現在時刻を設定する …… 15
電力契約を設定する …… 16

ご使用方法

◆湯沸し
湯沸しモードを設定する …… 18
沸増しする …… 19
本日の昼間湯沸しを休止する …… 20
夜間湯沸し量を指定する …… 21
1週間の湯沸しパターンを設定する …… 22
湯沸し停止日数を設定する …… 23
湯沸しの詳細を設定する …… 24
◆給湯
給湯温度を設定する …… 27
給湯量お知らせを使う …… 28
◆コントローラ
使用湯量をチェックする …… 29
表示画面を設定する …… 30
スイッチ操作音を設定する …… 32
設定を元に戻す …… 33

メンテナンス

日常のお手入れ …… 34
定期点検のおすすめ（有料） …… 36

こんなときは

湯沸し量を再学習するとき …… 37
おたすけコックを使うとき …… 38
凍結のおそれがあるとき …… 39
使用しないとき/水抜きするとき …… 40
停電・断水・水道工事のとき …… 42
仕様 …… 43
コントローラにエラーが表示されたとき …… 44
故障かな？と思ったら …… 45
アフターサービス …… 47

安全上のご注意 必ずお守りください

■ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財の損害に結びつくものです。
安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
■お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

●表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を次の表示で説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷を負う可能性が想定される内容。	⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害を負う可能性、および物的損害の発生が想定される内容。

●お守りいただく内容の種類を、次の表示で区分し、説明しています。

禁止行為（してはいけないこと） 絶対に行わないでください。	**行為の指示（必ずすること）** 必ず指示に従い行ってください。	アース工事の確認

⚠警告

■貯湯ユニット・ヒートポンプユニット

禁止
絶対に分解・修理・改造・移設しない
火災・感電・けがの原因になります。修理・移設は販売店（据付工事店）にご相談ください。

禁止
給湯機の近くにガス類や引火物を置かない
発火の原因になります。

禁止
ヒートポンプ配管に手を触れない
やけどの原因になります。

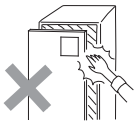
必ず実行
異常・故障時には、直ちに使用を中止する
発煙・火災・感電・やけどの原因になります。
次のようなことがある場合は、故障や事故防止のため、すぐに使用を中止し、漏電しゃ断器を「OFF（切）」にして、販売店（据付工事店）または修理受付フリーダイヤルに点検・修理（有料）をご相談ください。
・使用中にこげくさい臭いがしたり、異常な音や振動がする。
・設置場所が濡れている。
・お湯がぬるい。
・漏電しゃ断器が動作する。
・その他の異常・故障がある。
エラーが表示されている場合は ➡ P.44

アース線接続
アース工事されているか確認する
故障や漏電の時に感電の原因になります。
アースの取り付けは販売店（据付工事店）にご相談ください。

■貯湯ユニット

禁止
漏電しゃ断器は、濡れた手で操作しない
感電の原因になります。

禁止
前面カバー・工事窓を開けない
感電の原因になります。



禁止
逃し弁点検時は、内部の配管・逃し弁の排水管に手を触れない
やけどの原因になります。

禁止
排水時やおたすけコック使用時は、熱湯が出ることがあるのでお湯に触れない
やけどの原因になります。

必ず実行
お手入れや点検後は、操作部のふたを必ず閉じる
感電の原因になります。

必ず実行
漏電しゃ断器の動作を確認する
漏電しゃ断器が故障のまま使用すると漏電時に感電の原因になります。
確認方法は ➡ P.34

必ず実行
おたすけコックは、タンクの湯温が下がってから使用する
取水時に熱湯が出たり、ホースが熱くなるなどで、やけどの原因になります。

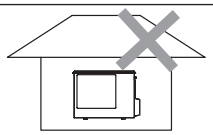
⚠警告

■ヒートポンプユニット

禁止

ヒートポンプユニットは、屋内に設置しない

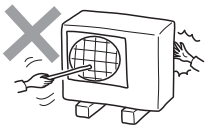
万一、冷媒（CO_2）が漏れると、酸欠により死亡または、重傷事故（脳機能障害）に至ることがあります。



禁止

ヒートポンプユニットのアルミ部分（吸込口）に触ったり、空気吸込口・吹出口に手や棒を入れたりしない

けが・故障の原因になります。



■給湯

禁止

給湯時は、じゃ口（湯水混合せん）のハンドル以外の部分に手を触れない

やけどの原因になります。

禁止

使いはじめは、しばらくお湯に触れない

特に朝の使いはじめは、空気の混ざった熱湯が飛び散ることがあります。

禁止

子どもだけで浴室内で遊ばせない

熱いお湯が出て、やけどの原因になります。特に小さなお子さまのいるご家庭では注意してください。

必ず実行

給湯温度の変更は、他のじゃ口（湯水混合せん）の使用状況を確認してから行う

やけどの原因になります。
特に浴室でシャワーを使用しているときなどは、注意してください。

必ず実行

シャワー使用時や入浴時は、最初に手で湯温を確かめる

やけどの原因になります。

必ず実行

停電時や停電復帰後にお湯を使用するときは、必ず湯温を確かめてから使用する

湯温が調節できず、高温のお湯が出ることがあるため、やけどの原因になります。 ➡ P.42

⚠注意

■貯湯ユニット・ヒートポンプユニット

禁止
特殊用途には使用しない
一般家庭の使いかた以外では使用しないでください。
能力不足や思わぬ電気料金がかかったり、製品の性能・品質低下や寿命が短くなることがあります。

禁止
機器に乗ったり、物を載せたり、配管に力を加えたりしない
事故・やけど・水漏れの原因になります。

禁止
高圧洗浄機等で水洗いしない
漏電による火災・感電の原因となります。

必ず実行
水道水を使用していることを確認する
必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
井戸水・地下水・温泉水は使用できません。水道水であっても塩分・石灰分・その他不純物が多く含まれている水質や、酸性水質での使用はさけてください。
機器の詰まりや腐食など故障の原因になります。

必ず実行
お手入れや点検時は、漏電しゃ断器の電源レバーを「OFF（切）」にする
ヒートポンプユニットのファンが回転するため、けがの原因になります。

必ず実行
1か月以上使用しないときは、水抜きをする
凍結のおそれや水質が変化することがあります。
1か月未満の使用しないときでも凍結のおそれがあるときは水抜きをしてください。➠ P.40

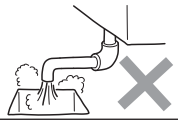
必ず実行
給湯機の周りに落ち葉などがたまらないようにする
虫などが侵入し、故障や発火・発煙の原因になります。

必ず実行
凍結予防対策の確認をする
凍結するとタンクや配管が破損して、やけどや水漏れの原因になります。➠ P.39

必ず実行
凍結のおそれがあるとき、漏電しゃ断器の電源レバーを「OFF（切）」にする場合は、水抜きを確実にする
配管が凍結し、水漏れの原因になります。水抜き方法は ➠ P.40

■貯湯ユニット

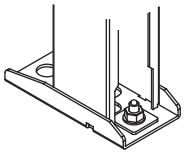
禁止
タンクの熱湯は直接排水しない
やけどや排水管を傷めることがあります。お湯を使い切ってから排水してください。



禁止
タンクを満水にせずに、電源を入れたままにしない
故障の原因になります。
給湯機へ給水する手順は ➠ P.12

必ず実行
逃し弁の点検をする
タンクが破損したり、逃し弁などからの水漏れにより、やけどや大きな被害につながります。
逃し弁の確認方法は ➠ P.34

必ず実行
脚がアンカーボルトで固定してあるか確認する
地震などにより本体が倒れ、けがの原因になります。

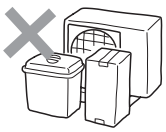


必ず実行
床面が防水・排水処理されていることを据付工事店へ確認する
水漏れが起きた場合、階下などに被害を及ぼすおそれがあり、大きな被害につながります。

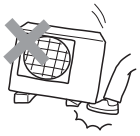
■ヒートポンプユニット

禁止
動植物に直接風をあてない
動植物に悪影響を及ぼすことがあります。

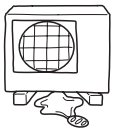
禁止
吹込口や吹出し口をふさがない
能力低下や故障の原因になります。



禁止
ヒートポンプユニットの架台が傷んだ状態で使用しない
落下・転倒し、けがの原因になります。



禁止
ヒートポンプユニットの真下に濡れて困るものは置かない
ドレン水が排水されます。



⚠注意

■給湯

禁止

そのまま飲用しない

長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管の劣化などにより水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記のことに注意し、必ず一度やかんなどで沸騰させてください。

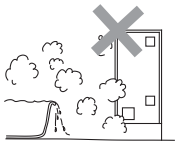
・必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
・お湯が出てくるまでの水（配管内にたまっていた水）は雑用水としてお使いください。
・固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用せず直ちに販売店（据付工事店）へ点検の依頼を行ってください。

ご使用にあたってのお願い

■貯湯ユニット・ヒートポンプユニット

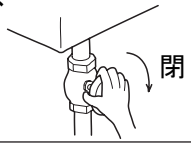
●給湯機が浴室など湿気の多い場所に取り付けられていないか確認する

・感電や誤動作の原因になります。
・コントローラは、屋外や浴室などの湿気の多い場所やガス燃焼機器のそばなど　高温になる所に取り付けないでください。誤動作の原因になります。



●機器の給水配管止水せんがどこにあるか確認する

・タンク内の水抜き・万一の水漏れ・故障の際に閉じると水が止まります。
・ふだん給湯機を使用しているときは、開いておきます。



■給湯

●夜間時間帯のご使用について

給湯機は主に夜間時間帯にお湯を沸します。そのため、夜間時間帯にお湯を使用すると、翌日の湯量が少なくなったり、昼間に沸増しをして電気代が高くなったりすることがあります。

●お湯を上手に使う

1日に使用できるお湯の量には限りがあります。
・お湯は容器に受けて使いましょう。
・シャワーは出しっ放しにしないでこまめに止めましょう。

●タオル、浴槽が青くなることがあります

使用地域の水質や給湯機の銅配管により薄青くなることがあります。これは、水中に溶け出したわずかな銅イオンとせっけんなどに含まれる脂肪酸とが反応したもので、人体に害はありません。

■コントローラ

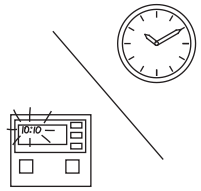
禁止

コントローラに水をかけない

コントローラは防水タイプではありません。内部に水が入り、故障の原因になります。

●コントローラの時刻を確認する

現在時刻がずれている場合は、時刻を合わせ直してください。
時刻がずれているとタンクのお湯を沸かす時に電気料金の高い昼間電力を使用するため、電気料金が割高になることがあります。



エコキュートの上手な使いかた

■エコキュートをより省エネで経済的にご使用いただくためのポイントを紹介します。

上手にお湯を沸かして使うポイント

●エコキュートは、過去のお湯の使用量を学習してお湯を沸かしますが、設定により湯沸し余裕分を多めに沸かすことも少なめに沸かすこともできます。ご家庭の使用状況にあわせて、必要な量だけお湯を沸かし、上手に使い切ることが省エネのポイントです。
具体的には下記を参考にご使用ください。

ポイント1

●湯沸しモードは最も効率よく湯を沸かす「おまかせ節約」をおすすめします。「おまかせ節約」で頻繁にお湯が足りなくなった時は、「おまかせ」に設定変更してください。その場合、効率が低下し消費電力量が増える場合があります。➡ P.18

ポイント2

●その日にお湯をもう使わない場合は、不要な湯沸しを防ぐため、本日の湯沸しを「休止」してください。➡ P.20

ポイント3

●旅行等で短期間不在になるときは、不要な湯沸しを防ぐため、「湯沸し停止日数」を設定してください。➡ P.23

ポイント4

●普段と同じようにご使用されていても、水温が変化することでタンクのお湯の使用量は変わります。季節により湯沸しの設定を見直してご使用ください。（一般的に冬場はお湯の使用量が増えます。）

ポイント5

●お湯が足りなくなりそうな時には、「沸増し」を設定して必要な湯量を確保してください。➡ P.19
・使用湯量の目安：浴槽への湯はり…約200L/回、シャワー…約10L/分 （設備・機器により異なります。）
・一旦「沸増し」を設定した後でも、お湯の量が間に合う場合は「沸増し」設定を解除してください。

ポイント6

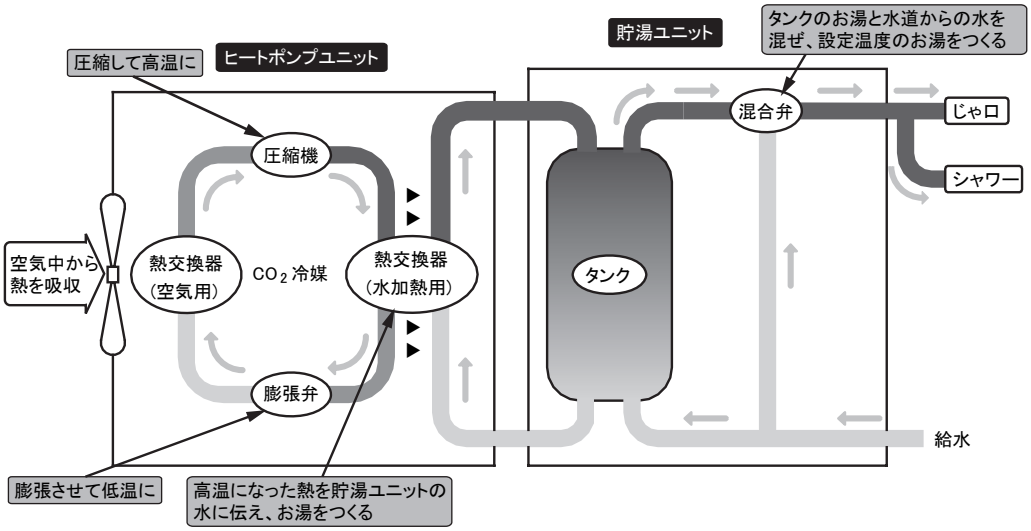
●湯はり時などで、給湯の出しっ放しを防ぐために、「給湯量お知らせ」の設定をおすすめします。➡ P.28

エコキュートのしくみ

●エコキュートは、貯湯ユニットとヒートポンプユニットから構成されています。自然冷媒（CO_2）を使って、ヒートポンプユニットが大気の熱を回収し、お湯を沸かします。主に夜間時間帯にお湯を沸かし、タンクに貯めて使います。

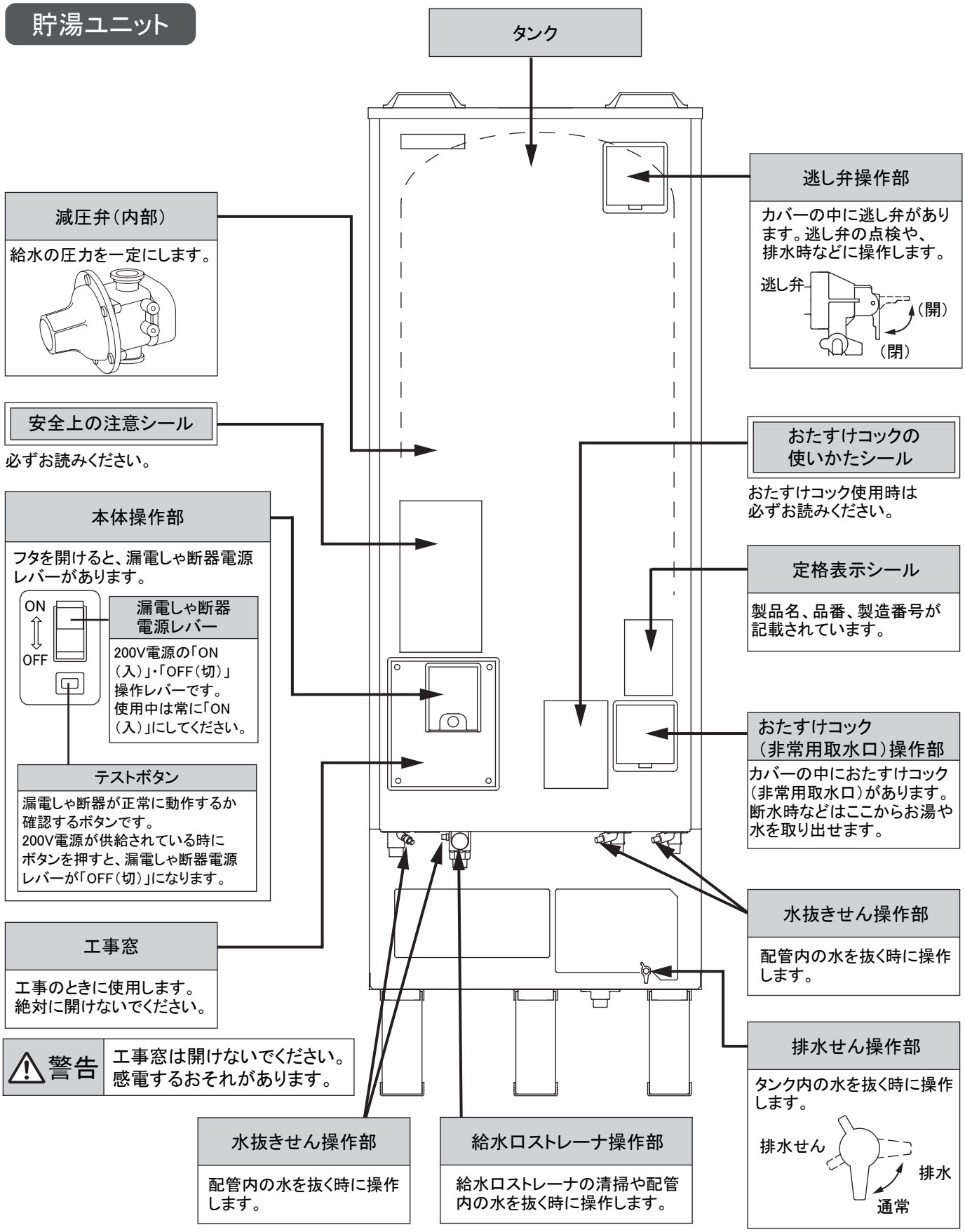
湯沸し・給湯のしくみ

●主に夜間時間帯に湯沸しを行いますが、お客様の使用湯量を学習して、消費電力量ができるだけ少なくなるように最適な湯沸しをするため、夜間時間帯以外の時間でも湯沸しを行うことがあります。
●タンクのお湯は、給湯で使用した分減りますが、使用した分給水されるため、タンク内は常にお湯（水）で満たされています。



各部の名称と働き（貯湯ユニット）

貯湯ユニット



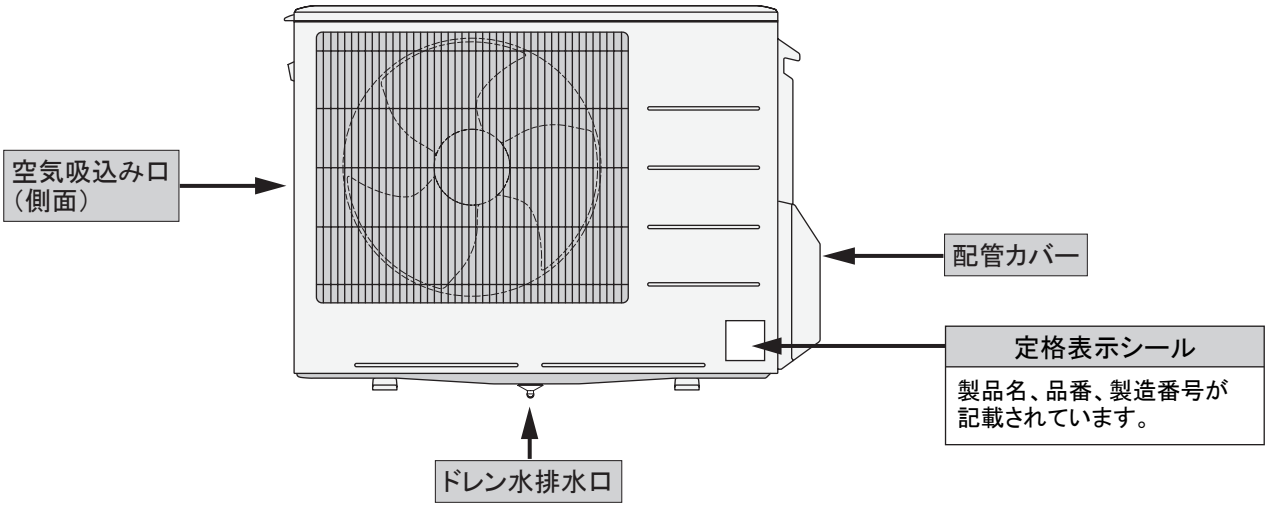
⚠警告　工事窓は開けないでください。感電するおそれがあります。

【お知らせ】
○EQS2009U-** は、おたすけコックの使いかたシールおよび定格表示シールの貼付け位置が若干異なります。

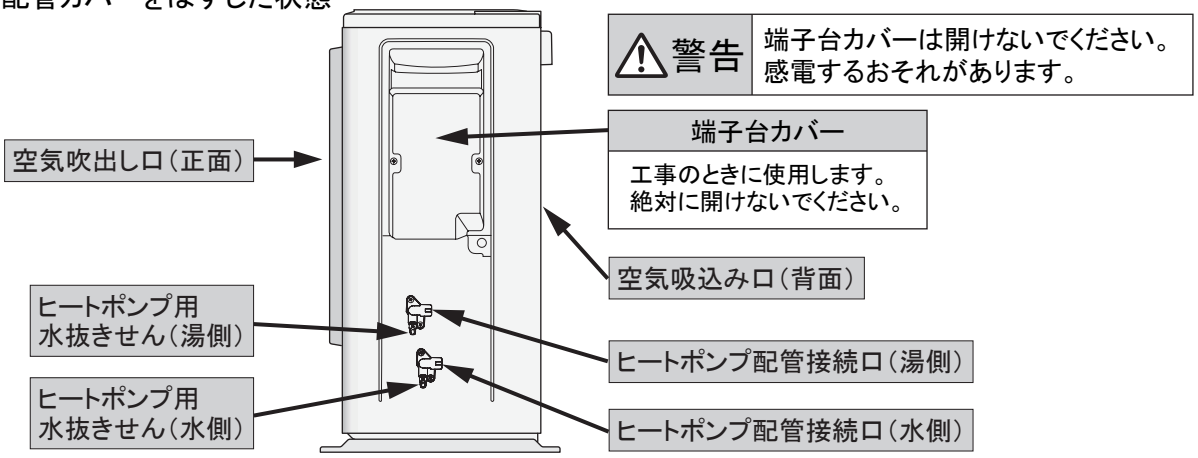
各部の名称と働き（ヒートポンプユニット）

ヒートポンプユニット

正面図



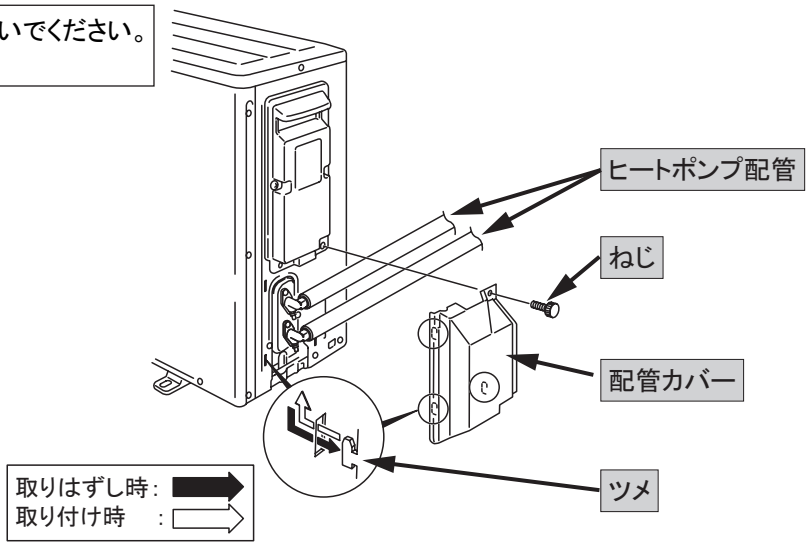
側面図 配管カバーをはずした状態



⚠警告 ヒートポンプ配管に手を触れないでください。
やけどするおそれがあります。

●配管カバーの取りはずしかた
（1）ねじ1本をはずす。
（2）配管カバーを下にスライドさせて
ツメ3か所をはずし、手前に引く。

●配管カバーの取り付けかた
（1）配管カバーを押し込み、上にスライドさせて
ツメ3か所をはめる。
（2）ねじ1本を締める。



各部の名称と働き（本体据付例・配線例）

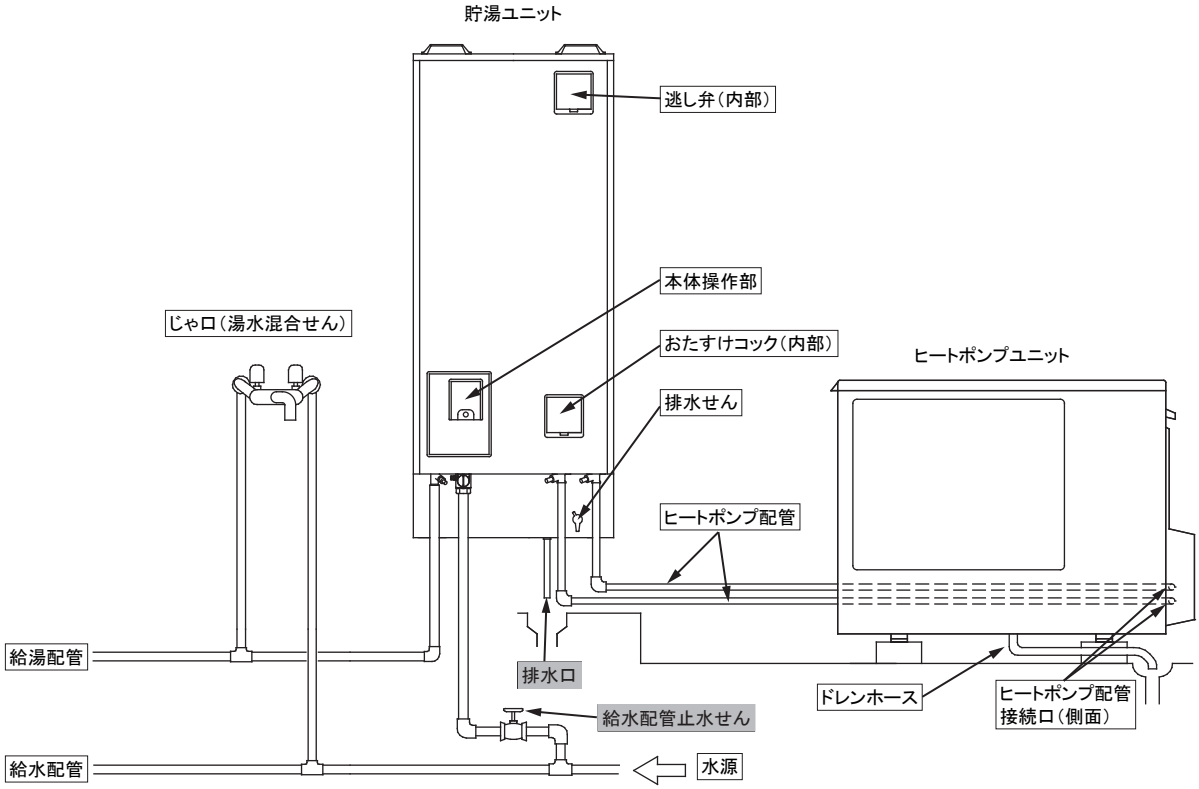
本体据付例

■屋外設置標準配管例
※地域や設置場所により工事内容が若干異なることがあります。

排水口・・・タンクの排水時や、湯沸し中に、お湯や水が出ます。

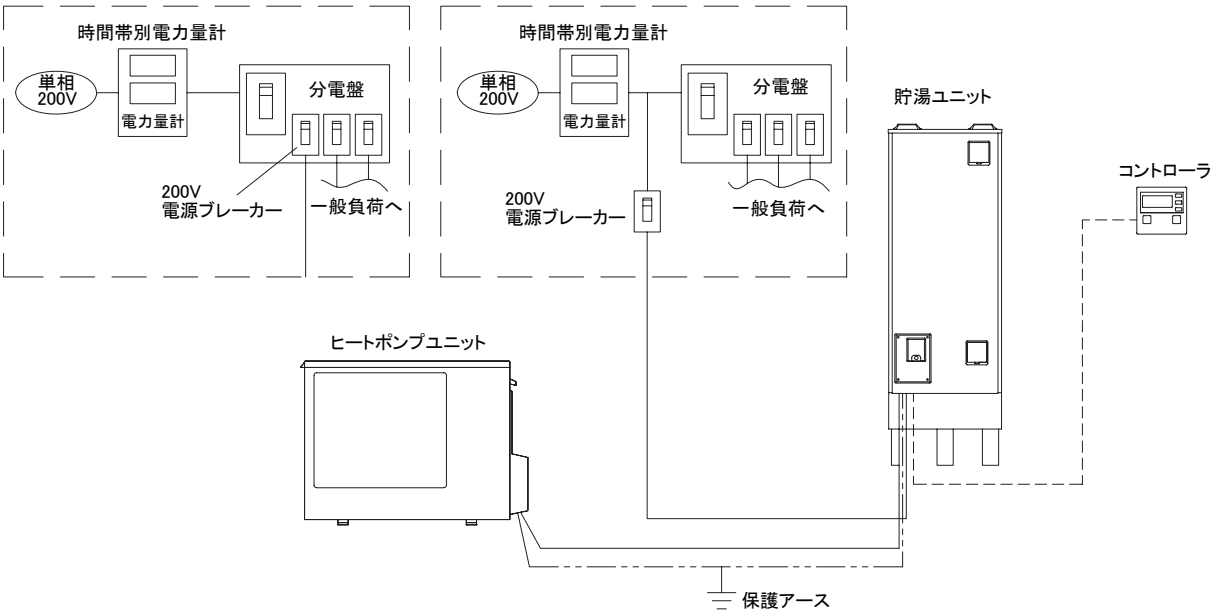
給水配管止水せん・・・水源の「開」「閉」に使用します。

【お知らせ】
○湯沸し時は、排水口より、お湯（水）が少量出ますが、故障ではありません。



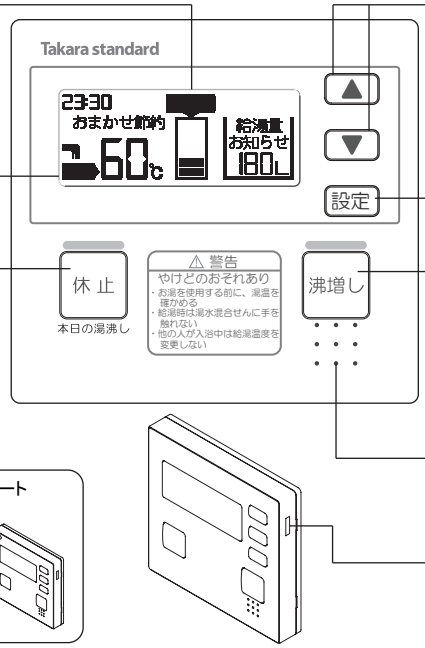
配線例

■時間帯別電灯契約と季節別時間帯別電灯契約の電気配線例
※電力制度及び電気配線回路は、販売店または据付工事店に確認してください。



各部の名称と働き（コントローラ）

コントローラ本体



表示画面
時刻・湯沸し設定・残湯量・給湯温度・エラー表示などを表示します。
・表示内容については本ページ下部参照

バックライト
スイッチを押すか、給湯機を使うと約1分間（初期設定）バックライトが点灯します。
・バックライトについては ➡ P.31

本日の湯沸し休止スイッチ
本日の昼間湯沸しを停止するときに押します。
・本日の湯沸し休止については ➡ P.20

上下スイッチ
給湯温度を変更するときに押します。
設定モード中は選択対象を変えます。
・給湯温度については ➡ P.27
・設定モードについては ➡ P.14

設定スイッチ
湯沸しモードなどの設定をするときに押します。
・設定モードについては ➡ P.14

沸増しスイッチ
沸増しするときに押します。
・沸増しについては ➡ P.19

ブザー
確認音が出ます。

品番シール
コントローラの品番を表示します。

【お知らせ】
ご使用の前に、コントローラ表面の保護シートを取りはずしてください。

保護シート

表示部

本日の湯沸し休止表示
本日の湯沸し休止が設定されている場合に表示します。
・本日の湯沸し休止については ➡ P.20

〈休止〉

土日設定表示
土日設定が「入」のとき、土曜日の夜間時間帯から日曜日の間に表示します。
・土日設定については ➡ P.25

時刻表示
現在時刻を表示します。
・現在時刻については ➡ P.15

湯沸し表示
タンクの湯沸し中や沸増し中などにそれぞれの状態を表示します。
・表示については ➡ P.11

沸増し表示
沸増しが設定されている場合に表示します。
・沸増しについては ➡ P.19

湯沸しモード表示
タンクの湯沸しモードを表示します。
・湯沸しモードについては ➡ P.18

23:30 SS 湯沸中 〈沸増〉 W
おまかせ節約
高温 60℃
給湯量
お知らせ
180L

ウィークリー湯沸し表示
ウィークリー湯沸しが設定されているときに表示します。
・ウィークリー湯沸しについては ➡ P.22

出湯表示
シャワーなどが出湯中のときに表示します。
・表示については ➡ P.27

高温表示
給湯温度が55℃以上の設定のときに約10秒間点滅した後表示します。
・表示については ➡ P.27

給湯量お知らせ表示
給湯量お知らせの設定量を表示します。
・給湯量お知らせについては ➡ P.28

給湯温度表示
給湯温度を表示します。
・給湯温度については ➡ P.27

残湯量表示
タンク内の残湯量を表示します。
・表示については ➡ P.11

●残湯量の目安

表　示							のこり わずか	湯切れ 注意	
EQS2009U-**	175L以上	175L～ 145L	145L～ 115L	115L～ 85L	85L～ 55L	55L～ 25L	25L未満		
EQS3709U-**	320L以上	320L～ 250L	250L～ 200L	200L～ 150L	150L～ 100L	100L～ 50L	50L未満		
EQS4609U-**	410L以上	410L～ 340L	340L～ 270L	270L～ 200L	200L～ 120L	120L～ 50L	50L未満		

※残湯量が50L（EQS2009U-**の場合は25L）より少なくなると、「のこりわずか」表示となります。「のこりわずか」の状態で給湯を行い、お湯が出せなくなると、「湯切れ注意」が表示されます。「湯切れ注意」表示は、沸増しや夜間湯沸しによって、残湯量が50L以上（EQS2009U-**の場合は25L）に増えるまで表示します。

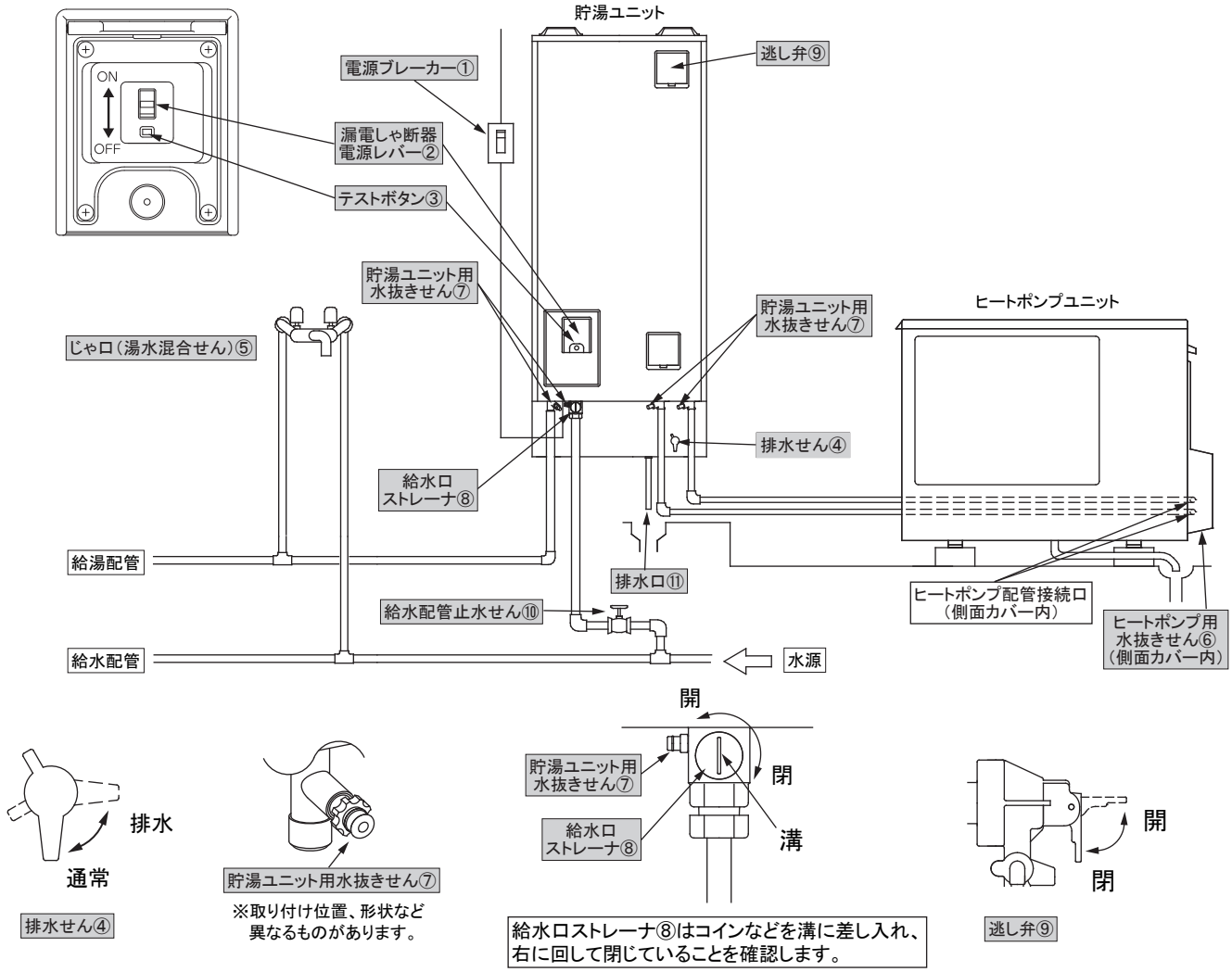
※上記表の残湯量はタンクの中の湯量を指します。（使用湯量チェックなどで表示される43℃換算湯量ではありません。使用湯量チェックについては ➠ P.29）

●湯沸し表示

表　示	湯沸し状態	詳細ページ	表　示	湯沸し状態	詳細ページ
湯沸中	夜間湯沸し中	—	沸増	湯切れ沸増し中	24ページ
沸増	学習追加沸増し中	18ページ	沸増	夜間不足分沸増し中	24ページ
沸増	追加沸増し中	16、18、25ページ	沸増中	沸増し中	19ページ
ピークカット	ピークカット時間中	26ページ		ヒートポンプ 凍結予防運転中	39ページ

ご使用前の準備

■給湯機の使い始めや、水抜き後に給湯機を使い始める場合は、次の手順で操作してください。
■方法がわからないときは、据付工事店（販売店）へご相談ください。



1 給水の準備をします。

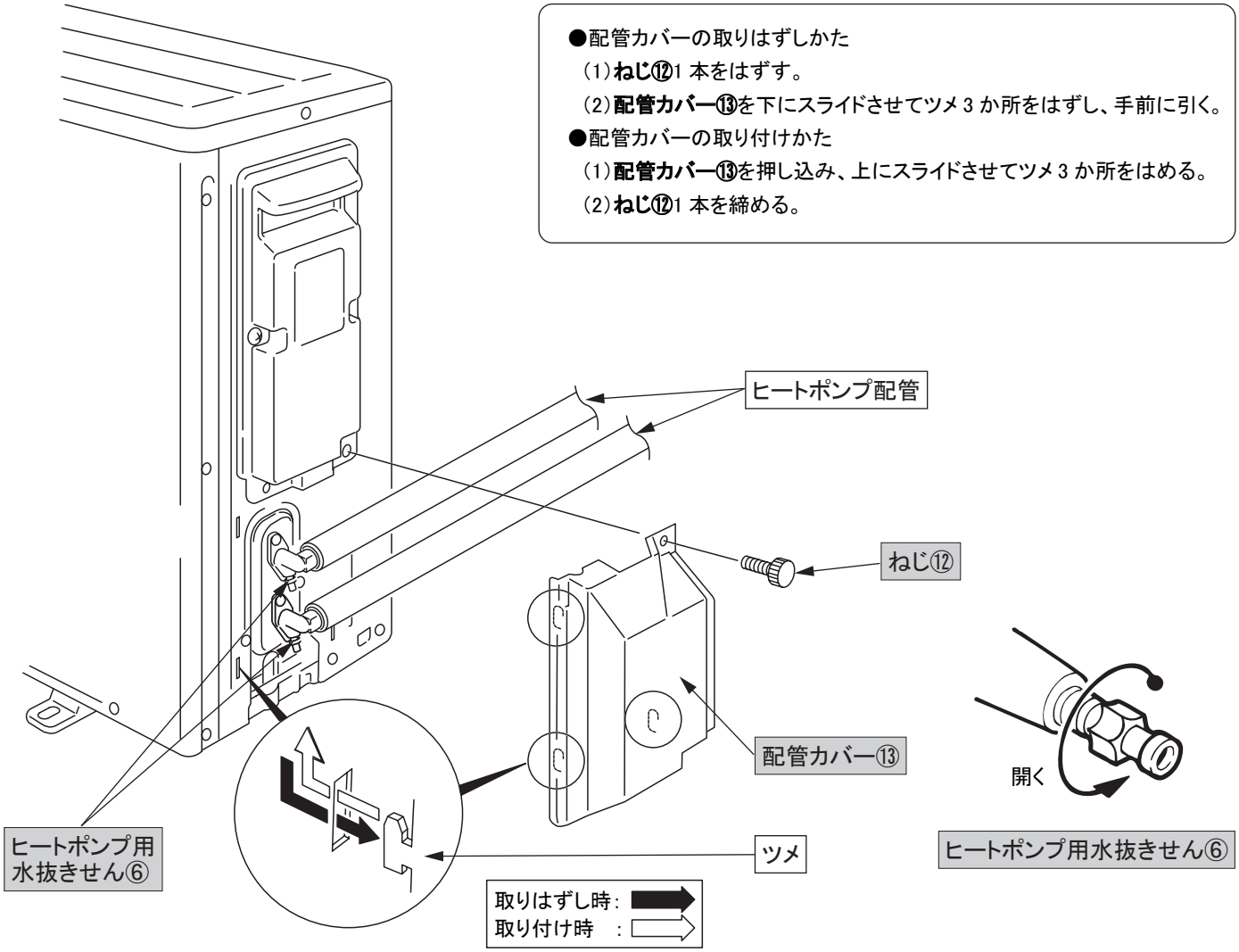
1. 貯湯ユニット用の**電源ブレーカー①**と**漏電しゃ断器電源レバー②**を「ON（入）」にし、コントローラの画面が表示されることを確認してください。
2. 約30秒後に貯湯ユニット用の**電源ブレーカー①**を「OFF（切）」にします。**テストボタン③**を押しても**漏電しゃ断器電源レバー②**が「OFF（切）」にならないことを確認してください。
3. **漏電しゃ断器電源レバー②**を「OFF（切）」にします。
4. **排水せん④**を「通常」にします。
5. すべての**じゃ口（湯水混合せん）⑤**を閉じます。（開いていると給水に時間がかかることがあります。）
6. **ヒートポンプ用水抜きせん⑥**（2か所）、**貯湯ユニット用水抜きせん⑦**（4か所）、**給水口ストレーナ⑧**のすべてを閉じます。

2 貯湯ユニットを満水にします。

1. **逃し弁⑨**のレバーを上げ、**給水配管止水せん⑩**を開きます。
2. **排水口⑪**から水が勢いよく出てきたら、**逃し弁⑨**のレバーを下げます。
3. **じゃ口（湯水混合せん）⑤**を湯側全開で開けて、空気まじりの水から連続的に水が出ることを確認します。
4. **じゃ口（湯水混合せん）⑤**を閉じます。

【お知らせ】
○貯湯ユニットが空の状態から、満水になるまで約30分かかります。（機種により多少異なります。）
○給水中に排水口から水と空気が混ざりボコボコと音がすることがありますが、異常ではありません。水が勢いよく出るまでお待ちください。

●配管カバーの取りはずしかた
（1）**ねじ⑫**1 本をはずす。
（2）**配管カバー⑬**を下にスライドさせてツメ 3 か所をはずし、手前に引く。
●配管カバーの取り付けかた
（1）**配管カバー⑬**を押し込み、上にスライドさせてツメ 3 か所をはめる。
（2）**ねじ⑫**1 本を締める。



3 ヒートポンプ配管の空気抜きを行います。

1. **ヒートポンプ用水抜きせん⑥**（2 か所）を開きます。
2. 水と空気を 1 ～ 2 分出し、空気が混ざらなくなるのを確認します。
3. **ヒートポンプ用水抜きせん⑥**（2 か所）を閉じます。
4. 各配管の接続部から水漏れがないか確認します。

4 電源を入れます。

1. 貯湯ユニット用の**電源ブレーカー①**と**漏電しゃ断器電源レバー②**を「ON（入）」にします。
2. コントローラの設定をします。

○現在時刻の設定 ➡ P.15
○湯沸しモードの設定 ➡ P.18
○給湯温度の設定 ➡ P.27

コントローラ設定項目一覧

設定モード一覧表

コントローラの 設定 を押すと設定モードに入ります。

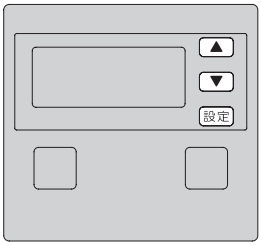
設定項目①	設定項目②	内容	初期設定	参照ページ
湯沸し設定	沸増し設定	沸増しする湯量を設定します。	200L	19ページ
	湯沸しモード	タンクの湯沸し量を変更します。	おまかせ節約	18ページ
	湯沸し停止日数	旅行などで湯沸しの必要がないとき、設定します。	解除	23ページ
	夜間指定量湯沸し	夜間時間帯で湯沸しする量を設定します。	解除	21ページ
	ウィークリー湯沸し	1週間のうち決まった曜日のみ湯沸しするとき、設定します。	切	22ページ
	湯切れ沸増し量 ※1	湯切れ予防のため、自動で沸増しを始める残湯量を変更します。	※2	24ページ
	夜間不足分沸増し ※1	夜間の湯沸しで不足している量を昼間に自動で沸増しします。	※3	24ページ
	土日設定 ※1	土曜日と日曜日は夜間時間帯に湯沸しする量を抑えて、夜間時間帯以外の時間に湯沸しする量を増やします。	切	25ページ
	セーブ運転	夜間時間帯の沸上げ消費電力を抑制します。沸き上げ時間は通常よりも長くなります。	切	25ページ
	ピークカット	設定した時間帯の間、湯沸しを停止します。	切	26ページ
	沸上げシフト	夜間時間帯の終了時刻よりも設定した時間分早く沸き上がるように湯沸しします。	なし	26ページ
給湯量お知らせ		ブザーと文字ガイドでお知らせする連続給湯量を設定します。	180L	28ページ
音/表示設定	スイッチ操作音	スイッチ操作音の「入」「切」を選びます。	入	32ページ
	文字ガイド	文字によるガイドを表示します。	入	30ページ
	バックライト	液晶画面のバックライトを設定します。	1分自動消灯	31ページ
	給湯バックライト	給湯使用時に液晶画面のバックライトが点灯します。	入	31ページ
	コントラスト	液晶画面のコントラストを設定します。	5	30ページ
使用湯量チェック	今日の使用湯量	今日の使用湯量と残り湯量を43℃換算で表示します。	—	29ページ
	曜日別使用湯量	最近の曜日別1週間分の使用湯量を棒グラフで表示します。	—	29ページ
	月別使用湯量	最近の月別1年間分の使用湯量を棒グラフで表示します。	—	29ページ
その他設定	時刻合わせ	現在時刻を合わせます。	2016年1月1日 13時00分	15ページ
	水抜きモード	タンクの水抜きを行うときに使用します。	切	40ページ
	電力設定	ご契約の電力制度を設定します。	T08-1	16ページ
	湯沸し学習クリア	湯沸しの学習データを消去します。	しない	37ページ
	設定クリア	設定モードの内容を初期設定値に戻します。	しない	33ページ
	販売店連絡先	お買い上げの販売店連絡先を表示します。※4	—	裏表紙

※1 夜間指定量湯沸しが設定されている場合は設定できません。（夜間指定量湯沸しが設定されていると、なし/禁止/切 となります。）
※2 湯沸しモードにより異なります。（おまかせ節約：70L、おまかせ：150L）
※3 湯沸しモードにより異なります。（おまかせ節約：禁止、おまかせ：許可）
※4 販売店連絡先が設定されている場合のみ電話番号を表示します。

・設定モード中に本日の湯沸し休止スイッチ・沸増しスイッチを押すと、設定モードは解除されます。

現在時刻を設定する

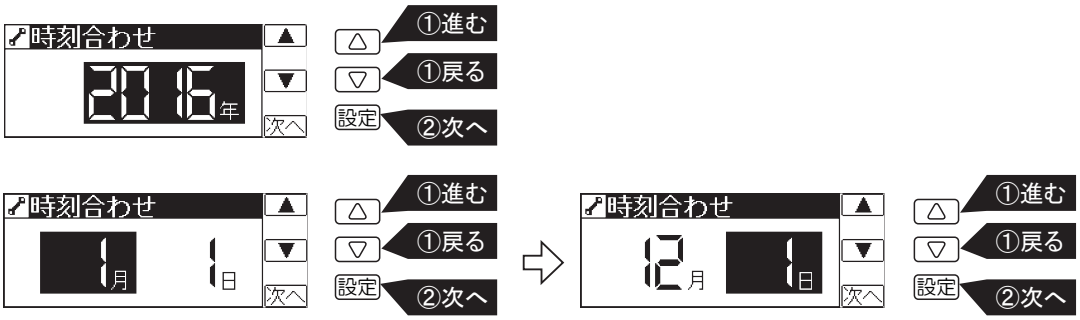
■給湯機をご使用になる前に、必ず現在時刻を確認してください。
■現在時刻が正しくない場合は、時刻を設定し直してください。



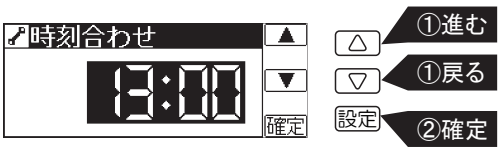
1 設定 を押し、【その他設定】を選びます。

2 【時刻合わせ】を選びます。

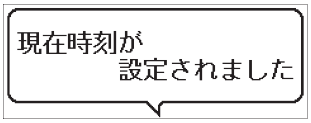
3 年・月・日を順に設定します。



4 現在時刻を設定します。



5 時刻設定が完了します。



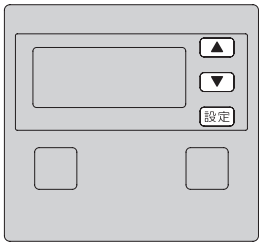
【お知らせ】
○次の画面が表示された場合、設定 を押し、3 以降に従って、現在時刻を設定してください。

ご注意

○時刻が正しく設定されていないと電気料金が割高になることがあります。
　特に午前と午後を間違えないでください（24時間表示です）。
○1か月に1回程度、現在時刻が合っているか確認してください。
○停電などにより時刻が若干変動することがあるため、復帰時に現在時刻が合っているか確認してください。

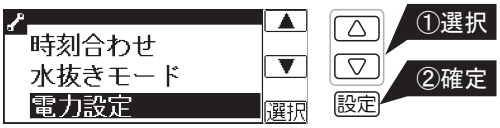
電力契約を設定する

■契約されている電力制度を設定します。
■電力契約を変更した場合は、必ず設定し直してください。

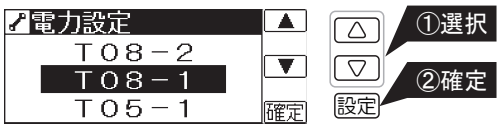


1 設定 を押し、【その他設定】を選びます。

2 【電力設定】を選びます。



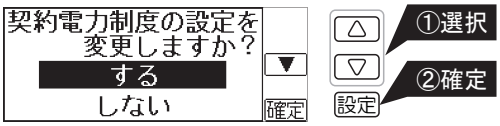
3 電力設定を選びます。
（次ページ「電力制度の内容」参照）



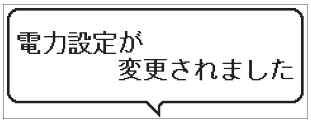
※マニュアル（手動設定）を選択する場合は、
右記の手順で設定を進めてください。

初期設定	T08-1
選択範囲	T05-1 T08-1、T08-2、T08-3、T08-4、T08-5 T09-1 T10-1、T10-2、T10-3 T12-1、T12-2 S08-1、S08-2 S09-1 S10-1、S10-2、S10-3、S10-4 マニュアル

4 【する】を選びます。

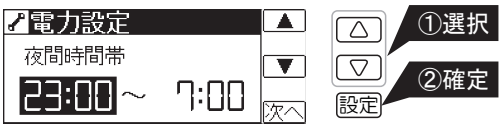


5 設定が完了します。



3 でマニュアルを選択した場合

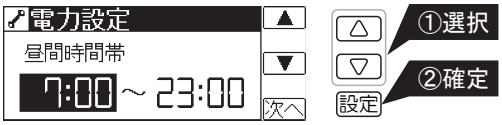
4 夜間時間帯を設定します。



※「--:--」（夜間時間帯なし）を選択した場合、使用量の予測に応じて時間に関係なく湯沸しを行います。

初期設定	（開始） 23:00、（終了） 7:00
選択範囲	0:00 ～ 23:00 （1時間刻み）、 －－：－－（夜間時間帯なし）

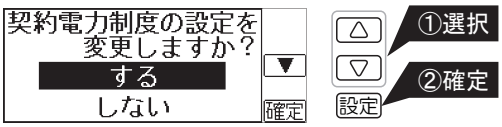
5 昼間時間帯を設定します。



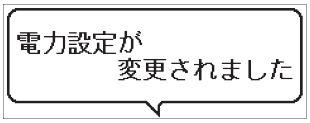
※夜間時間帯なしに設定した場合、昼間時間帯の設定はありません。

初期設定	（開始） 7:00、（終了） 23:00
選択範囲	夜間時間帯を除く時間帯（1時間刻み）、 －－：－－（昼間時間帯なし）

6 【する】を選びます。



7 設定が完了します。



【お知らせ】
○電力契約の種類によって電気料金の安価な時間帯が異なります。電力制度が合っていないと、電気料金が割高になることがあります。
○電力制度によっては、夜間時間帯以外の沸き上げが増える場合があります。
○夜間時間帯終了時間が夜間湯沸しの沸き上がり時間です。
○昼間時間帯の間は極力湯沸しを行いませんが、湯の使用状況によっては湯沸しを行います。
○夜間時間帯以外の時間ですべての湯沸しを停止するには、ピークカットを設定してください。ピークカットについては ➡ P.26
○夜間時間帯をなしに設定した場合、使用量の予測に応じて追加沸増しを行います。その場合、コントローラに 沸増 が表示されます。
○電力設定を変更すると、夜間指定量湯沸し、土日設定、セーブ運転、ピークカット、沸上げシフトは初期設定に変更されます。

電力制度の内容 （2016年3月時点）

電力制度	電力会社名	料金プラン名称	夜間時間帯	昼間時間帯
T08-1	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Bパターン）	23:00～7:00	なし
	東北電力	やりくりナイト8		
	東京電力エナジーパートナー	おとくなナイト8		
	中部電力	タイムプラン		
	北陸電力	エルフナイト8		
	関西電力	時間帯別電灯		
	四国電力	得トクナイト		
	四国電力	電化Deナイト		
	九州電力	時間帯別電灯（8時間型）		
	沖縄電力	時間帯別電灯		
T08-2	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Aパターン）	22:00～6:00	なし
T08-3	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Cパターン）	0:00～8:00	なし
T08-4	東京電力エナジーパートナー	夜得プラン	21:00～5:00	なし
T08-5	東京電力エナジーパートナー	朝得プラン	1:00～9:00	なし
T09-1	中国電力	エコノミーナイト	23:00～8:00	なし
T10-1	東北電力	やりくりナイト10	22:00～8:00	なし
	東北電力	やりくりナイトS		
	東京電力エナジーパートナー	おトクなナイト10		
	北陸電力	エルフナイト10		
	九州電力	時間帯別電灯		
S08-1	東北電力	ピークシフト季節別時間帯別	23:00～7:00	10:00～17:00
	東京電力エナジーパートナー	電化上手		
	東京電力エナジーパートナー	ピークシフトプラン		
	中部電力	ピークシフト電灯		
	関西電力	はぴeタイム		
	関西電力	季節別電灯PS		
	四国電力	ピークシフト型時間帯別電灯		
	沖縄電力	Eeライフ		
S08-2	中部電力	Eライフプラン	23:00～7:00	9:00～17:00
	四国電力	スマートeプラン[タイプL]		
	四国電力	スマートeプラン[タイプH]		
S09-1	中国電力	ファミリータイム（プランⅠ）	23:00～8:00	10:00～17:00
	中国電力	ファミリータイム（プランⅡ）		
	中国電力	電灯ピークシフトプラン		
S10-1	北陸電力	エルフナイト10プラス	22:00～8:00	10:00～18:00
	九州電力	季時別電灯		
	九州電力	ピークシフト電灯		
S10-4	北海道電力	eタイム3	22:00～8:00	13:00～20:00

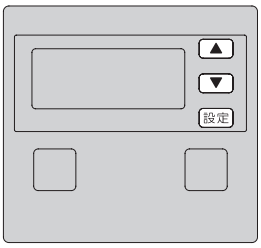
電力制度の内容 （2016年4月時点）

電力制度	電力会社名	料金プラン名称	夜間時間帯	昼間時間帯
T05-1	東京電力エナジーパートナー	スマートライフプラン	1:00～6:00	なし
T08-1	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Bパターン）	23:00～7:00	なし
	東北電力	よりそう+ナイト8		
	東京電力エナジーパートナー	夜トクプラン（夜トク8）		
	関西電力	時間帯別電灯		
	沖縄電力	時間帯別電灯		
T08-2	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Aパターン）	22:00～6:00	なし
T08-3	北海道電力	ドリーム8、ドリーム8エコ（Cパターン）	0:00～8:00	なし
T10-1	東北電力	よりそう+ナイト10	22:00～8:00	なし
	東北電力	よりそう+ナイトS		
	東北電力	よりそう+ナイト＆ホリデー		
	九州電力	電化でナイト・セレクト22		
T10-2	九州電力	電化でナイト・セレクト21	21:00～7:00	なし
T10-3	九州電力	電化でナイト・セレクト23	23:00～9:00	なし
T12-1	東北電力	よりそう+ナイト12	21:00～9:00	なし
	東京電力エナジーパートナー	夜トクプラン（夜トク12）		
	中国電力	電化Styleコース		
	中国電力	ナイトホリデーコース		
T12-2	北陸電力	くつろぎナイト12	20:00～8:00	なし
S08-1	東北電力	よりそう+サマーセーブ	23:00～7:00	10:00～17:00
	関西電力	はぴeタイム		
	関西電力	季節別電灯PS		
	沖縄電力	Eeライフ		
S10-1	中部電力	スマートライフプラン	22:00～8:00	10:00～18:00
	東北電力	よりそう+シーズン&タイム		
S10-2	中部電力	スマートライフプラン（夜とく）	21:00～7:00	10:00～17:00
	関西電力	eスマート10		
S10-3	中部電力	スマートライフプラン（朝とく）	23:00～9:00	9:00～17:00
	四国電力	スマートeプラン[タイプL+]		
	四国電力	スマートeプラン[タイプH+]		
S10-4	北海道電力	eタイム3	22:00～8:00	13:00～20:00
	北海道電力	eタイム3（Sプラン）		

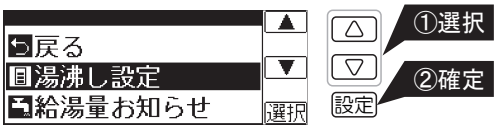
【お知らせ】
○契約している電力制度の内容については、ご契約の電力会社にお問い合わせください。
○電力制度の一部には、夜間時間帯以外の設定時間が表記と異なる場合があります。必要な場合は、3 でマニュアルを選択し、各時間を設定してください。
○上記以外の電力制度に関しては、3 でマニュアルを選択し、各時間を設定してください。ご不明な場合は、お買い求めの販売店か、お近くの当社支社・支店・営業所にお問い合わせください。

湯沸しモードを設定する

■タンクの湯沸しモードを設定します。
■湯沸しモードはご家庭のお湯の使用量に応じて設定してください。



1 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。



2 【湯沸しモード】を選びます。

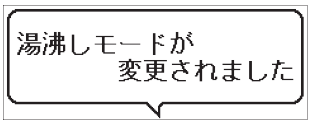
3 湯沸しモードを選びます。

湯沸しモード	特徴	湯沸し詳細設定の初期設定	
		湯切れ沸増し量	夜間不足分沸増し
おまかせ節約（初期設定）	過去の使用量を学習し、最小限の湯温と湯量で湯沸しします。	70L	禁止
おまかせ	過去の使用量を学習し、「おまかせ節約」よりも多く湯沸しします。	150L	許可

湯沸し温度は約65～90℃です。過去の使用量や外気温度により異なります。

湯沸しの詳細設定については ➡ P.24

4 設定が完了します。

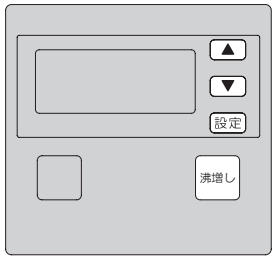


【お知らせ】
○使い始めの2日間は使用量に関係なく、夜間全量湯沸しします。
○使い始めの学習期間は、夜間時間帯以外にも湯沸しをすることがあります（学習追加沸増し）。
その場合、コントローラに 沸増 が表示されます。
○「おまかせ節約」設定の場合、夜間時間帯以外にも追加沸増しを行います（お湯をあまり使わないと行いません）。
その場合、コントローラに 沸増 が表示されます。
○ヒートポンプ凍結予防運転は、湯沸しモードに関係なく行うため、夜間時間帯以外にも湯沸しをすることがあります。
○湯沸しモードを変更すると湯切れ沸増し量、夜間不足分沸増し、夜間指定量湯沸しの設定は、初期設定に戻ります。

ご注意
○現在時刻の設定がされていないと、湯沸しできません。
○夜間時間帯にお湯を使用した場合、沸き上がらないことがあります。
○来客などで急にお湯をたくさん使用すると、湯切れすることがあります。あらかじめ前日に「夜間指定量湯沸し」で「満タン」に設定しておくか、当日に「沸増し」を設定してください。夜間指定量湯沸しについては ➡ P.21、沸増しについては ➡ P.19
○夜間時間帯に湯沸しモードを「おまかせ節約」から「おまかせ」に変更した場合、夜間時間帯にお湯が沸き上がらないことがあります。

沸増しする

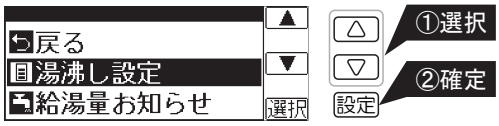
■昼間に沸増しを行い、お湯がたりなくなるのを防ぎます。
■夜間の湯沸しで湯量が不足する場合や、来客などでいつもより使用湯量が増える場合に設定します。



1 沸増しする湯量を決めます。

沸増しする湯量の設定を変更しないときは、6 へ進んでください。
（初期設定は「200L」です。）

2 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。



3 【沸増し設定】を選びます。

4 沸増しする湯量を選びます。

初期設定	200L
選択範囲	100L～400L（100L刻み）、最大

※43℃に換算した湯量です。
※「最大」に設定した場合、タンク全量の沸増しを行います。
タンク全量の沸増し終了後は、残湯量表示が1目盛以上無くなると、沸増しを再開します。
○使用湯量の目安（設備・機器により異なります。）
・浴槽への湯はり：約200L/回
・シャワー：約10L/分

5 設定が完了します。

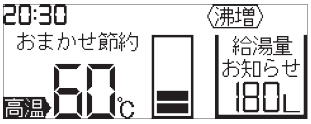
沸増し設定が
変更されました

6 沸増し を押します。

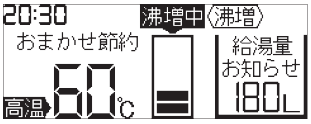
沸増しが設定されます。
※（ ）の内容は設定内容によって変わります。

沸増し（２００Ｌ）が
設定されました

画面に 〈沸増〉 が表示されます。



沸増し運転中は、画面に 沸増中 が表示されます。



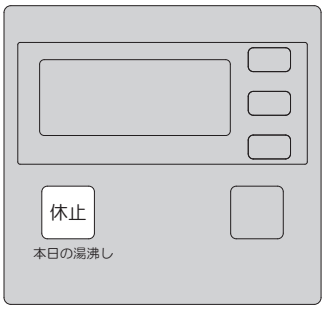
途中で沸増しを解除するときは、沸増し を押します。

沸増しが解除されました

【お知らせ】
○夜間時間帯以外で沸増しを行うと、昼間電力でタンクのお湯を沸かすため、ご契約の電力制度によっては、電気料金が割高になることがあります。
○一度設定すると設定したその日に沸増しを行い、夜間の湯沸しが始まると自動的に解除されます。夜間時間帯に設定した場合は、夜間時間帯終了時に解除されます。
○残湯量が十分あるときは、沸増し設定後すぐには沸増し運転を行いません。

本日の昼間湯沸しを休止する

■本日にもうお湯を使わず、湯沸しの必要がない場合に設定します。

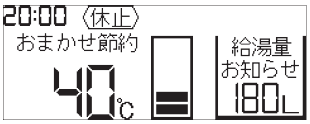


休止 を押します。

本日の湯沸し休止が設定されます。

本日の湯沸し休止が
設定されました

画面に 〈休止〉 が表示されます。



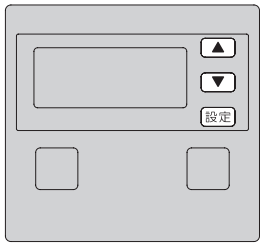
途中で本日の昼間湯沸し休止を解除するときは、 休止 を押します。

本日の湯沸し休止が
解除されました

【お知らせ】
○夜間の湯沸しが始まると自動的に解除されます。夜間湯沸し開始後に設定した場合は、夜間時間帯終了時に解除されます。
○電力設定で夜間時間帯を「なし」に設定している場合は、7:00に設定が解除されます。
○本日の湯沸し休止が設定されていても、製品や配管の凍結を予防するために湯沸しを行うことがあります。このとき、残湯量表示が増えることがあります。凍結予防については ➠P.39

夜間湯沸し量を指定する

■夜間時間帯に湯沸しする量を指定することができます。



1 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。

2 【夜間指定量湯沸し】を選びます。

3 湯沸し量を選びます。

初期設定	解除
選択範囲	解除、100L～400L※（100L刻み）、満タン

※43℃に換算した湯量です。

※選択範囲はタンク容量により異なります。

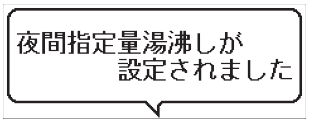
（200L機種の場合・・・100～200L、370L機種の場合・・・100～400L、460L機種の場合・・・100～500L）

○使用湯量の目安（設備・機器により異なります。）

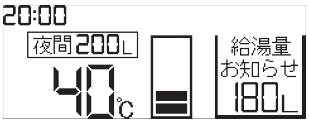
・浴槽への湯はり：約200L/回

・シャワー：約10L/分

4 設定が完了します。



コントローラに設定内容が表示されます。



【お知らせ】

○設定を変更するまで、設定内容は継続します。

○設定した湯沸し量が同じでも季節や使用状況によって、沸き上がり時の残湯量目盛数は変わることがあります。

○夜間湯沸し終了時の湯量が指定量となります。時間が経過すると、タンクの放熱により、使用可能湯量は減少します。

○夜間指定量湯沸しを設定した場合、夜間時間帯以外は自動で湯沸しを行いません。（凍結予防運転を除く。）追加でお湯が必要なときは、「沸増し」を設定してください。沸増しについては ➡ P.19

○お客様の使用量によっては、夜間湯沸し湯量を最大湯量で沸かしている場合があるため、満タンに設定した場合でも使用湯量が増えない場合があります。

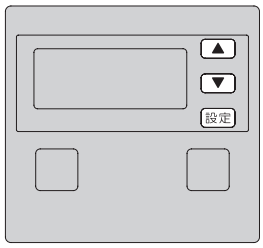
○電力設定で夜間時間帯を「なし」に設定している場合は、設定できません。

○夜間時間帯に設定を変更した場合、指定量まで沸かせない場合があります。

○電力制度や湯沸しモードを変更した場合、夜間指定量湯沸しが解除されます。

1週間の湯沸しパターンを設定する

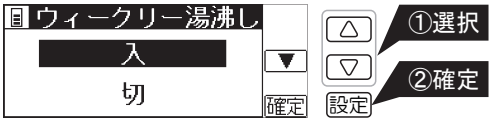
■1週間の中で、湯沸しを行う曜日の指定ができます。
■1週間の生活パターンが決まっている場合におすすめです。



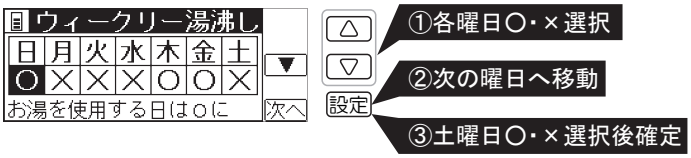
1 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。

2 【ウィークリー湯沸し】を選びます。

3 【入】を選びます。



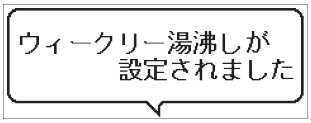
4 お湯を使用する曜日を設定します。



初期設定	切（各曜日「○」）
選択範囲	切、入（各曜日「○」または「×」）

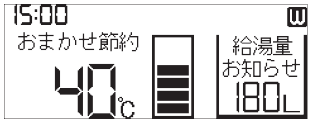
日曜日から土曜日まで順番に、お湯を使用する日は「○」、お湯を使用しない日は「×」を設定します。
上記画面は、日曜日・木曜日・金曜日の昼間にお湯を使用する場合の設定例です。
（日曜日、木曜日、金曜日の朝にお湯が沸いています。）

5 設定が完了します。

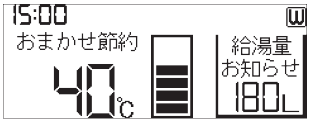


コントローラに W または W が表示されます。表示は夜間時間帯開始時（23:00など）に切り替わります。

●お湯を使用する日（朝沸き上がる日）



●お湯を使用しない日（朝沸き上がらない日）

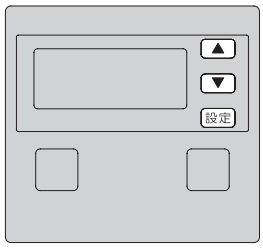


【お知らせ】
○設定を「切」にするまで継続されます。停止するときは ③ で「切」を選択してください。
○設定を「切」にしても、再度「入」にしてウィークリー湯沸しを設定するときは、前回の設定内容が表示されます。
○コントローラの現在時刻（年・月・日）が正しく設定されていないと、設定通りに湯沸しを行いません。
○ウィークリー湯沸しが設定されていても、製品や配管の凍結を予防するために湯沸しを行うことがあります。このとき、残湯量表示が増えることがあります。凍結予防については ➡ P.39

ご注意
○凍結のおそれがあるときは、ウィークリー湯沸しを設定しないでください。

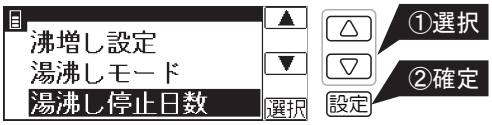
湯沸し停止日数を設定する

■湯沸し停止日数を設定することで、湯沸しを停止することができます。
■旅行などでお湯が必要でない日の電気代を節約することができます。



1 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。

2 【湯沸し停止日数】を選びます。



3 日数を選びます。

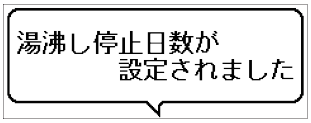
初期設定	解除
選択範囲	解除、1日～15日、湯沸しOFF※

※湯沸しOFFに設定すると、設定を解除するまで湯沸しを行いません。

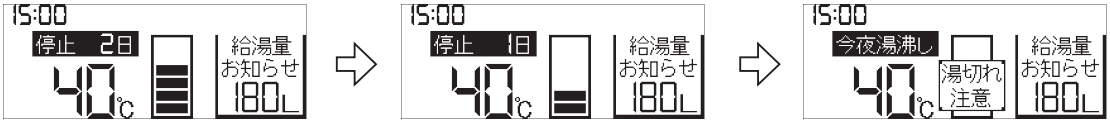
●湯沸し停止日数の決めかた（数日間旅行する例）
出発日に下記のように設定すれば、帰宅日にお湯が沸いています。

・1泊2日の旅行の場合 ⇨ 設定しません。
・2泊3日の旅行の場合 ⇨ 出発日に「1日」を設定。
・3泊4日の旅行の場合 ⇨ 出発日に「2日」を設定。

4 設定が完了します。



設定した日数が表示されます。日数は夜間時間帯終了時（7:00など）に1日少なくなります。

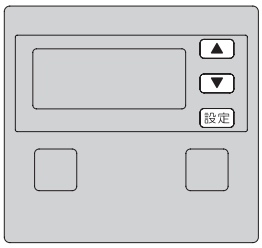


【お知らせ】
○湯沸し停止日数が設定されている時に湯沸しを再開する時は ③ で「解除」を選択してください。
○夜間時間帯終了時を基準に日数が計算されます。24時以降の夜間時間帯（➡ P.16～17）に湯沸し停止日数を設定するときは、日数を1日増やしてください。
○電力設定で夜間時間帯を「なし」に設定している場合は、7:00に日数が1日少なくなります。
○湯沸し停止日数が設定されていても、製品や配管の凍結を予防するために湯沸しを行うことがあります。このとき、残湯量表示が増えることがあります。凍結予防については ➡ P.39
○30日よりも長くタンクの水（湯）を使用しなかった場合は、タンクの水（湯）を入れ替えてからご使用ください。
タンク排水のしかたについては ➡ P.40、タンク給水のしかたについては ➡ P.12

ご注意
○凍結のおそれがあるときは、湯沸し停止日数を設定しないでください。

湯沸しの詳細を設定する

■湯沸し運転の詳細を設定します。
■ご家庭のお湯の使用量や季節に応じて設定してください。



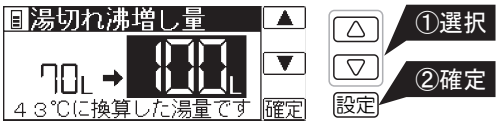
1 設定 を押し、【湯沸し設定】を選びます。

湯切れ沸増し量

■湯切れ予防のため、自動で沸増しを始める残湯量を設定します。
■湯切れが心配なときは、湯切れ沸増し量を多く設定してください。

2 【湯切れ沸増し量】を選びます。

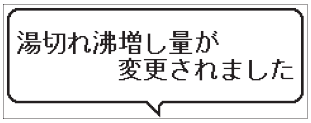
3 内容を選びます。



	おまかせ節約	おまかせ
初期設定	70L	150L
設定範囲	なし、70L、100L～400L（50L刻み）	

※43℃に換算した湯量です。

4 設定が完了します。



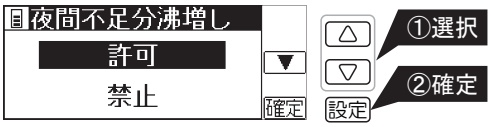
【お知らせ】
○お湯の使用中に残湯量が設定量を下回ると、設定量を確保するように湯切れ沸増しを開始します。なお、湯切れ沸増しは、最低20分間行います。
○ピークカットを設定している場合、設定時間の間は湯切れ沸増しを行いません。ピークカットについては ➡ P.26
○湯切れ沸増し量を多く設定すると、昼間電力の使用量が増え、電気料金が高くなる場合があります。
○設定変更後に湯沸しモードを変更した場合、湯切れ沸増し量は初期設定に戻ります。
○湯切れ沸増し中は、沸増 が表示されます。
○夜間指定量湯沸し設定中は 2 で湯切れ沸増し量の項目が表示されません。

夜間不足分沸増し

■学習した夜間の湯沸し目標湯量に対して、夜間に湯沸しした湯量が目標湯量に満たなかった場合、不足している量を夜間時間帯以外で沸増しします。

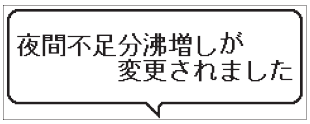
2 【夜間不足分沸増し】を選びます。

3 内容を選びます。



	おまかせ節約	おまかせ
初期設定	禁止	許可
設定範囲	禁止、許可	

4 設定が完了します。



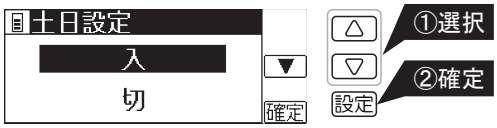
【お知らせ】
○夜間湯沸し中にお湯を使用すると、夜間湯沸し終了時、湯量が不足する場合があります。「許可」の場合、最大5時間の夜間不足分沸増しを行い、不足湯量を補います。
○「許可」の場合、昼間電力の使用量が増え、電気料金が高くなる場合があります。
○ピークカットを設定している場合、設定時間の間は夜間不足分沸増しを行いません。ピークカットについては ➡ P.26
○設定変更後に湯沸しモードを変更した場合、夜間不足分沸増し設定は初期設定に戻ります。
○夜間不足分沸増し中は、沸増 が表示されます。
○夜間指定量湯沸し設定中は 2 で夜間不足分沸増しの項目が表示されません。

土日設定

■土曜日と日曜日は夜間時間帯に湯沸しする量を抑えて、夜間時間帯以外の時間に湯沸しする量を増やします。

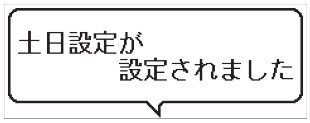
2 【土日設定】を選びます。

3 内容を選びます。

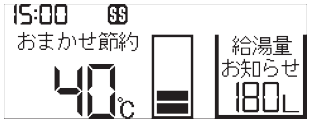


初期設定	切
選択範囲	切、 入

4 設定が完了します。



土曜日の夜間時間帯から日曜日の間、コントローラに SS が表示されます。



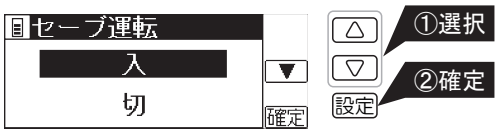
【お知らせ】
- ○電力契約によっては、土日設定を「入」にすると電気料金が高くなります。
- ○コントローラの現在時刻（年・月・日）が正しく設定されていないと、正しく動作しません。現在時刻については ➡ P.15
- ○土日設定を「入」にすると、夜間時間帯以外の時間に追加沸増しを行います。その場合、コントローラに 沸増 が表示されます。
- ○夜間指定量湯沸し設定中は 2 で土日設定の項目が表示されません。
- ○電力設定を変更すると、土日設定は初期設定に戻ります。

セーブ運転

■夜間時間帯に湯沸しするときの消費電力を通常よりも抑えます。湯沸し時間は通常よりも長くなります。

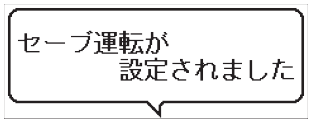
2 【セーブ運転】を選びます。

3 内容を選びます。



初期設定	切
選選択範囲	切、 入

4 設定が完了します。

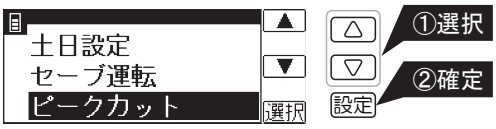


【お知らせ】
- ○セーブ運転を「入」にすると、外気温度・水温・給湯使用量によっては、夜間時間帯にお湯が沸き上がらない場合があります。
- ○電力設定を変更すると、セーブ運転は初期設定に戻ります。

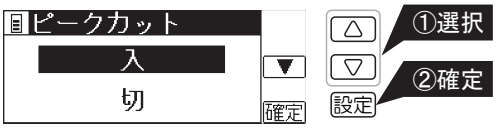
ピークカット

■設定した時間帯の湯沸しを停止することができます。
■特定の時間帯の沸き上げを避けたいときに設定します。

2 【ピークカット】を選びます。

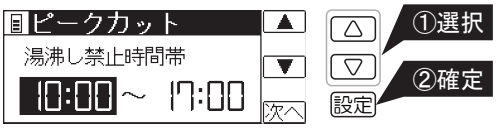


3 内容を選びます。



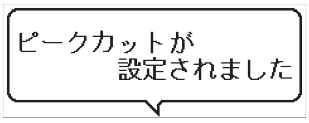
初期設定	切
選択範囲	切、 入

4 時間を設定します。

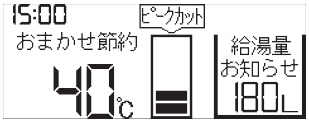


初期設定	（開始） 10:00、（終了） 17:00
選択範囲	夜間時間帯を除く時間(1時間刻み)

5 設定が完了します。



設定した時間帯の間、コントローラに ピークカット が表示されます。

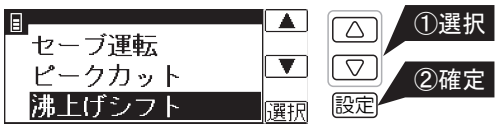


【お知らせ】
○設定した時間帯の間は、湯沸しが必要な場合でも自動で沸増しを行いません。必要に応じて沸増しを行ってください。沸増しについては ➡ P.19
○ピークカットを設定しても、製品や配管の凍結を予防するために湯沸しを行うことがあります。このとき、残湯量表示が増えることがあります。凍結予防については ➡ P.39
○電力設定を変更すると、ピークカットは初期設定に戻ります。

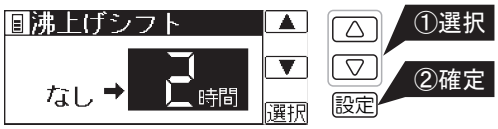
沸上げシフト

■夜間時間帯の湯沸しの沸き上がり時間を早めることができます。
■消費電力のピークが重なるなど、夜間時間帯終了時刻前の数時間に湯沸しを避けたいときに使用します。

2 【沸上げシフト】を選びます。

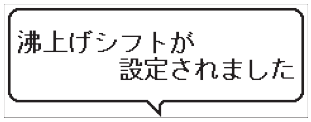


3 時間を選びます。



初期設定	なし
選択範囲	なし、1時間～4時間（1時間刻み）

4 設定が完了します。



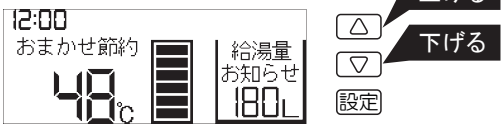
【お知らせ】
○電力設定で設定した夜間時間帯の長さによっては、沸上げシフトを設定すると、夜間時間帯終了時の湯量が不足する場合があります。
○電力設定を変更すると、沸上げシフトは初期設定に戻ります。

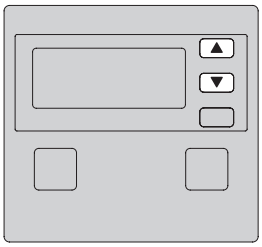
給湯温度を設定する

■台所、洗面所、シャワーなどの給湯温度を設定します。

⚠警告	やけどの原因になりますので、以下のことに注意してください。 ・給湯温度の変更前に、他の人がシャワーなどでお湯を使用していないか確認してください。 ・使いはじめ（特に朝の使いはじめ）は、空気の混ざった熱湯が飛び散る場合があります。

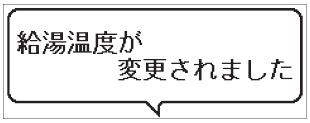
1 温度を選びます。



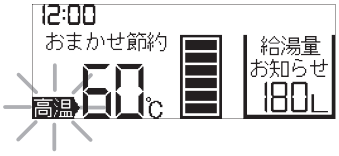


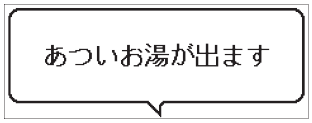
初期設定	40℃
選択範囲	水温、30℃、35～50℃（1℃刻み）、55℃、60℃

2 設定が完了します。



55℃、60℃に設定した場合は「高温」表示が約10秒間点滅した後、点灯します。





ご注意

○給湯は湯温を確かめて、湯温が安定してから使用してください。

【お知らせ】

○サーモスタット付湯水混合せんの場合は、給湯機の温度設定を、サーモスタット付湯水混合せんの設定温度よりも高く設定してご使用ください。

○給湯機からの出湯量が少ないとき（2L/分以下）は温度制御を行いません。じゃ口（湯水混合せん）を絞りすぎないでください。
給湯制御中は、コントローラに が表示されます。

○表示温度と実際の給湯温度は、配管長さなどで異なる場合がありますので目安にしてください。

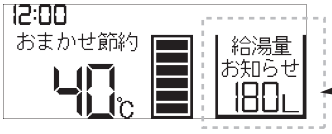
給湯量お知らせを使う

■コントローラで設定した給湯量を連続して給湯したときに、ブザーと文字ガイドでお知らせします。
■浴槽へ湯はりするときや、使用湯量の目安として使用するときにおすすめです。

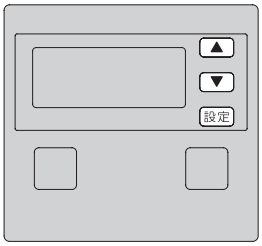
ご注意
○設定した給湯量になっても、給湯は自動で止まりません。必ずじゃ口（湯水混合せん）を閉じてください。

1 お知らせする給湯量を確認します。

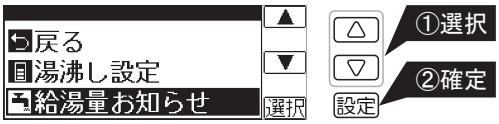
給湯量お知らせの設定を変更しないときは、5 へ進んでください。



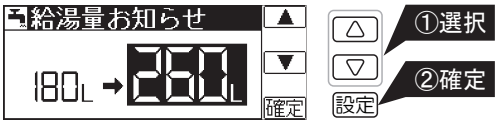
設定されている給湯量
（給湯機からの給湯量）



2 設定 を押し、【給湯量お知らせ】を選びます。

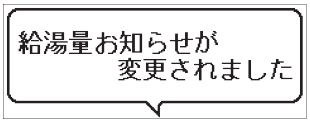


3 お知らせする給湯量を選びます。



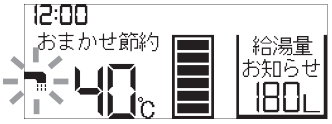
初期設定	180L
選択範囲	なし、60～500L（10L刻み）

4 設定が完了します。



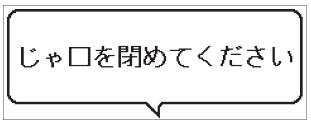
5 じゃ口（湯水混合せん）を開けます。

コントローラの出湯表示（ ）が点灯することを確認してください。

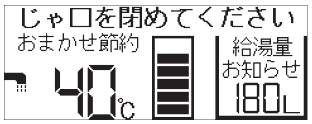


6 ブザーが鳴り、文字ガイドが表示されたら、じゃ口（湯水混合せん）を閉じます。

設定した給湯量が給湯されると、ブザーと文字ガイド表示でお知らせします（1分間）。



じゃ口を閉じずに1分経過すると、下図のようにコントローラに表示します。（3分間）



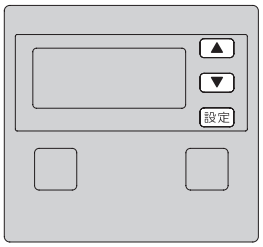
【お知らせ】
○給湯量は目安の値となります。
○給湯量お知らせの設定量は、じゃ口（湯水混合せん）の水側から出る水の量は含まれません。お湯と水を混ぜて給湯する場合の給湯量は、設定量に水側からの水量を加算した給湯量となります。特に、サーモスタット式混合水せんで使用する場合は、じゃ口（湯水混合せん）の設定温度を、給湯温度よりも高く設定してください。給湯温度よりも低い場合、水が混ざるため給湯量は設定量よりも多くなります。
○給湯機からの出湯量が少ないとき（2L/分以下）は、給湯量お知らせを行いません。じゃ口（湯水混合せん）を絞りすぎないでください。じゃ口（湯水混合せん）を開けたときに がコントローラに表示されていることを確認してください。
○給湯量は、給湯機から出た給湯量の合計となります。浴槽への湯はりなどで使用する場合、他の場所で同時にお湯を使用すると、浴槽への湯はり量が給湯量お知らせの設定量よりも少なくなります。
○お知らせ後も給湯を続けた場合、お知らせからさらに設定量を給湯した時点で、再度お知らせを行います。
○文字ガイドを「切」に設定していても、「じゃ口を閉めてください」の表示は行います。文字ガイドについては ➡ P.30

使用湯量をチェックする

■今日・曜日別・月別の使用湯量を確認することができます。

【お知らせ】
○タンク内のお湯の温度と量より算出しているため、目安の値となります。
○お湯を使用していない場合でもタンクからの放熱により、値が変化することがあります。
○1日の使用湯量は午前3時00分から翌日の午前2時59分までの量です。
○コントローラの現在時刻（年・月・日）が正しく設定されていないと、各使用湯量は正しく表示されません。
現在時刻については ➡ P.15

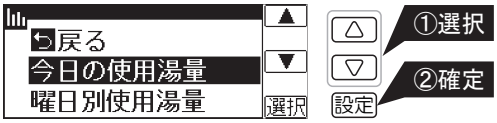
1 設定 を押し、【使用湯量チェック】を選びます。



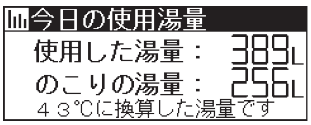
今日の使用湯量

■今日の使用湯量を43℃に換算して表示します。

2 【今日の使用湯量】を選びます。



3 使用した湯量とのこりの湯量が表示されます。



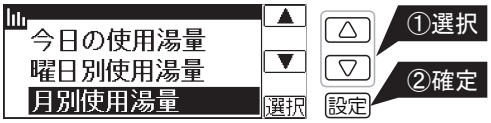
設定 を押すと終了します。

設定 を押さなくても1分後に終了します。

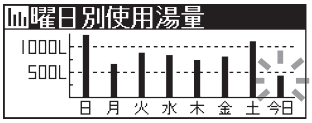
曜日別使用湯量・月別使用湯量

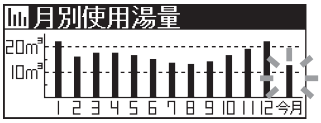
■曜日別使用湯量は、7日前からの曜日別使用湯量を43℃に換算して棒グラフで表示します。
■月別使用湯量は、1年前からの月別使用湯量を43℃に換算して棒グラフで表示します。

2 【曜日別使用湯量】または【月別使用湯量】を選びます。



3 2 で選択した曜日別 または 月別の使用湯量が表示されます。



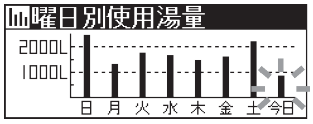


今日または今月の棒グラフは点滅します。

設定 を押すと終了します。

設定 を押さなくても1分後に終了します。

【お知らせ】
○「曜日別使用湯量」の場合、使用湯量が1275L以上の曜日があると、グラフの目盛りが倍になります。
○「月別使用湯量」の場合、使用湯量が26㎥以上の月があると、グラフの目盛りが倍になります。

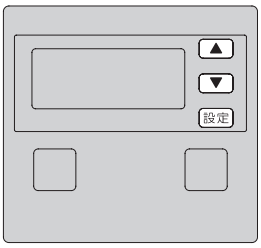


※画面は「曜日別使用湯量」の場合の例です。

表示画面を設定する

■コントローラの文字ガイド・コントラスト・バックライト・給湯バックライトを設定します。

1 設定 を押し、【音／表示設定】を選びます。

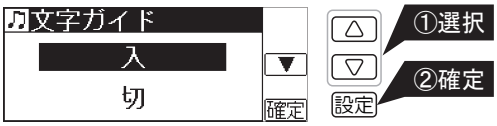


文字ガイド

■文字表示によるガイド機能を設定します。

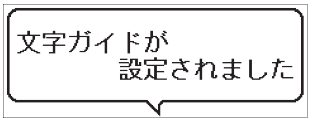
2 【文字ガイド】を選びます。

3 内容を選びます。



初期設定	入
選択範囲	切、 入

4 設定が完了します。

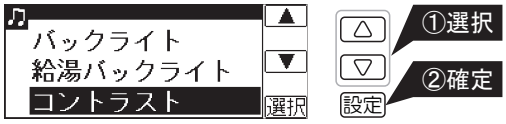


※文字ガイドを「切」にした場合、文字ガイドは行いません。

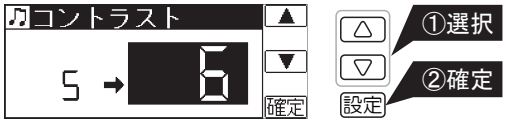
コントラスト

■液晶画面のコントラストを設定します。

2 【コントラスト】を選びます。

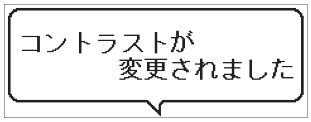


3 レベルを選びます。



初期設定	5
選択範囲	1 ～ 10（1刻み）

4 設定が完了します。

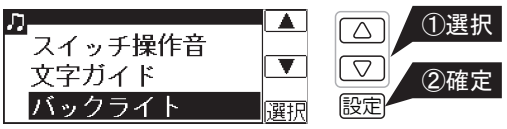


【お知らせ】
○コントラストのレベルを上げると表示が濃くなります。
レベルを下げると表示が薄くなります。

バックライト

■液晶画面のバックライトの点灯時間を設定します。

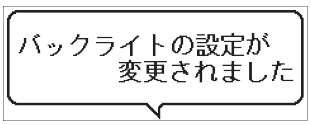
2 【バックライト】を選びます。



3 内容を選びます。

初期設定	1分自動消灯
選択範囲	1分自動消灯、5分自動消灯、常時点灯

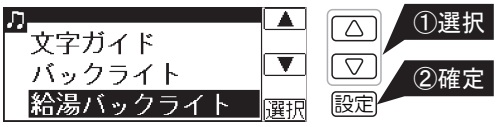
4 設定が完了します。



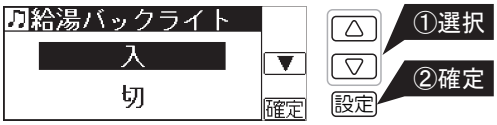
給湯バックライト

■給湯したときに、液晶画面のバックライトを自動点灯することができます。

2 【給湯バックライト】を選びます。

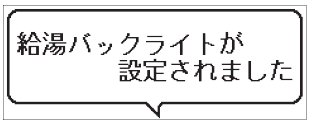


3 内容を選びます。



初期設定	入
選択範囲	切、 入

4 設定が完了します。



【お知らせ】

○バックライト点灯時間について

・1分自動消灯・5分自動消灯：

バックライトが消灯しているときに △ ▽ 設定 を押すと、その動作は行わず、まずバックライトが点灯します。また、給湯機を使用すると自動点灯し、使用をやめると設定時間後に自動消灯します。

・常時点灯：

常にバックライトが点灯します。

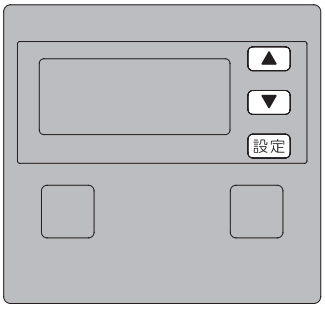
○給湯バックライトの動作について

入：消灯時は、給湯により液晶画面のバックライトが自動点灯します。

切：消灯時に給湯を行っても、自動点灯しません。

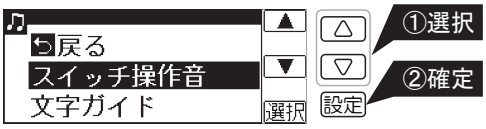
スイッチ操作音を設定する

■スイッチ操作音の「入」「切」を設定します。

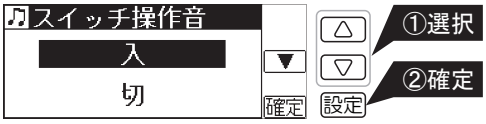


1 設定 を押し、【音／表示設定】を選びます。

2 【スイッチ操作音】を選びます。

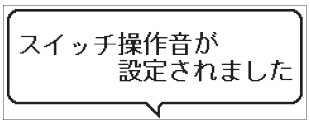


3 内容を選びます。



初期設定	入
選択範囲	入、切

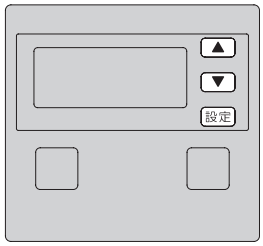
4 設定が完了します。



設定を元に戻す

■設定を最初からやり直したいときに使用します。
■給湯温度や湯沸しモードなどの設定を初期設定に戻します。ただし、現在時刻・電力制度・土日設定・セーブ運転・ピークカット・沸上げシフト・湯沸し学習は初期設定に戻りません。

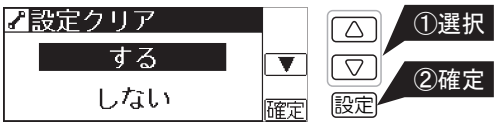
初期設定については ➡ P.14
現在時刻については ➡ P.15
電力制度については ➡ P.16～17
土日設定・セーブ運転・ピークカット・沸上げシフトについては ➡ P.25～26
湯沸し学習クリアについては ➡ P.37



1 設定 を押し、【その他設定】を選びます。

2 【設定クリア】を選びます。

3 【する】を選びます。



選択内容	する、しない

4 設定が完了します。

日常のお手入れ

■長く快適にご使用いただくためには、日頃のお手入れが必要です。
■安全にお手入れしていただくために、ゴム手袋などの着用をおすすめします。

配管の確認 （日常）

配管の保温材破損や水漏れなどがないか確認します。
マンションなどの中・高層住宅で水漏れが起きた場合、階下に被害を及ぼすことがあります。

コントローラ表面の清掃 （日常）

表面が汚れたときは、水に濡らしたやわらかな布をかたく絞り、
軽くふき取ってください。

ご注意
○洗剤およびシンナー、ベンジンなどは
使用しないでください。

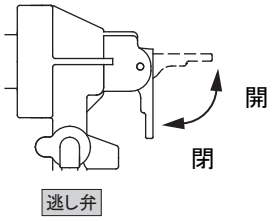
現在時刻の確認 （1か月に1回）

現在時刻がずれていると、電気料金が高くなることがあります。時刻がずれている場合は、合わせ直してください。
現在時刻については ➡ P.15

逃し弁の確認 （1年に2～3回）

1. 湯沸しをしていないとき（コントローラに 湯沸中 や 沸増中 などの表示がないとき）に、排水口から水（お湯）が出ていないことを確認します。
2. 逃し弁操作部のカバーを開け、逃し弁のレバーを上げて、排水口から水（お湯）が出ることを確認します。
3. レバーを下げて排水が止まることを確認します。

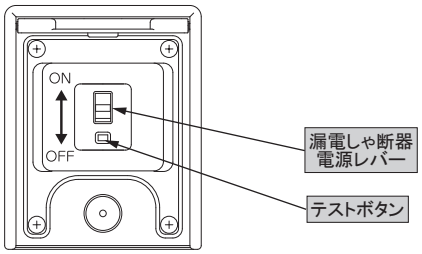
⚠警告	排水口より熱いお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。

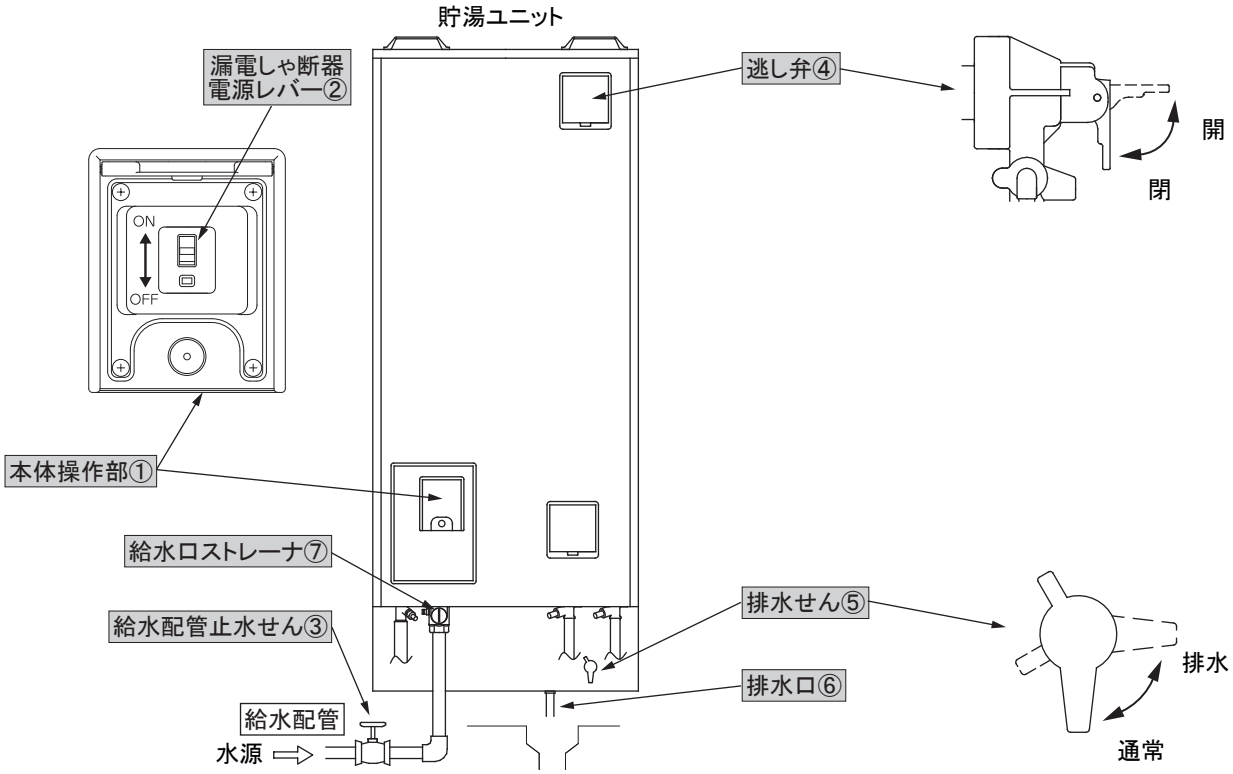


漏電しゃ断器の動作確認 （1年に2～3回）

漏電しゃ断器の点検は電源供給中に行ってください。停電中は動作確認できません。
1. 漏電しゃ断器のテストボタンを押します。漏電しゃ断器電源レバーが自動的に「OFF（切）」になれば正常です。
2. 漏電しゃ断器電源レバーを「ON（入）」に戻します。

⚠警告	■漏電しゃ断器が故障したまま使用すると、漏電時に感電するおそれがあります。 ■濡れた手で操作しないでください。感電するおそれがあります。





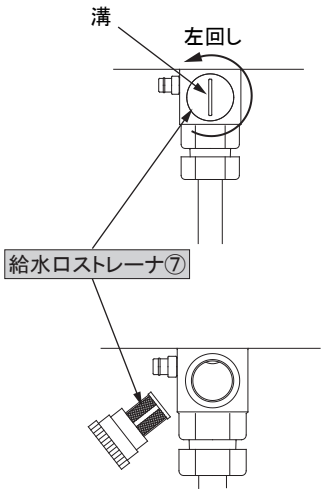
タンク内の清掃 （1年に2～3回）

1. **本体操作部①の漏電しゃ断器電源レバー②**を「OFF（切）」にします。
2. **給水配管止水せん③**を閉じます。
3. **逃し弁④**のレバーを上げます。（「開」にします。）
4. **排水せん⑤**を2分程度「排水」の向きにして、**排水口⑥**からタンク下部に溜まった汚れを流し出します。
5. 排水がきれいになったら**排水せん⑤**を「通常」の向きに戻します。
6. **給水配管止水せん③**を開き、**排水口⑥**より水が勢いよく出れば**逃し弁④**のレバーを戻します。（「閉」にします）
7. **本体操作部①の漏電しゃ断器電源レバー②**を「ON（入）」にします。

⚠警告	■排水口より熱いお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。 ■熱いお湯を流しますと排水管を損傷するおそれがあります。 残湯量表示が ▤ 以下（点灯している目盛りが5個以下）を確認してから、排水してください。

給水口ストレーナの清掃 （1年に1回）

1. **本体操作部①**内の**漏電しゃ断器電源レバー②**を「OFF（切）」にします。
2. **給水配管止水せん③**を閉じます。
3. **逃し弁④**のレバーを上げます。（「開」にします。）
4. **排水口⑥**より水が連続して出ていないことを確認します。
   （水が連続して出続ける場合は、作業を中止してください。**給水配管止水せん③**が故障しているおそれがありますので販売店にご相談ください。）
5. **給水口ストレーナ⑦**の溝にコインなどを差し入れ、左に回して取りはずします。
6. **給水口ストレーナ⑦**の網を水で洗い流してください。
7. **給水口ストレーナ⑦**を取り付け、確実に締めつけてください。
8. **給水配管止水せん③**を開き、**排水口⑥**より水が勢いよく出れば**逃し弁④**のレバーを戻します。
9. **本体操作部①の漏電しゃ断器電源レバー②**を「ON（入）」にします。



定期点検のおすすめ（有料）

■給湯機を長年にわたり安心して快適にご使用いただくためには、3年に1度専門技術者による定期点検（有料）を行ってください。定期点検を怠ると、家屋や家財などの損害に結びつく場合があります。

・ 定期点検は、給湯機本体・機能部品・消耗部品などの点検・交換・清掃を行います。
・ 給水用具（逆流防止装置）に関しては公益社団法人日本水道協会発行の給水用具の維持管理指針に基づいて点検してください。時期は3年に1回程度をおすすめします。
・ 逃し弁・減圧弁などは、設置条件・使用条件・特殊環境によっては劣化しやすい消耗部品であり、定期的な点検が必要です。長年にわたり（10年程度）使用されている場合は、毎年「定期点検」をお受けください。
・ 補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。（BL認定品は10年です。）長年使用されている場合、部品によってはご用意できない場合がありますので、ご容赦願います。
・ 定期点検整備のお申し込みやお問い合わせは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

定期点検整備の主な内容

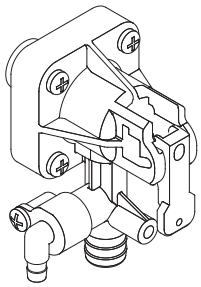
項　目	内　　容
据付状態の点検	配管接続部の水漏れ確認、電気絶縁チェック、配管保温材の確認、設置面の確認
機能部品の点検	逃し弁の水漏れ確認、減圧弁の確認、ポンプの確認、給水用具（逆流防止装置）の確認、電気部品（配線・導通）動作確認、その他消耗部品の確認
清掃・整備	タンク下部のスケール沈殿物の排出、ストレーナ（フィルター）の清掃、機能部品の清掃

消耗部品について

逃し弁・減圧弁などは消耗部品です。水質などの使用環境や使用状況によっては、3年程度で劣化する場合もあります。点検の結果、部品交換が必要な場合、交換に要する費用はお客様にご負担いただきます。

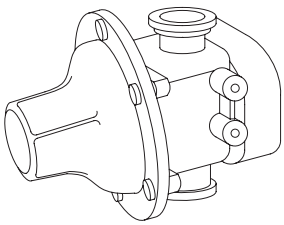
逃し弁

水質によっては、弁摺動部にスケールが付着したり、弁座シート部が磨耗して水漏れの原因になりますので交換が必要です。



減圧弁

水質によっては、減圧弁のダイヤフラム（ゴム製）や弁摺動部にスケールが付着したり、弁座シート部が磨耗して水漏れの原因になりますので交換が必要です。

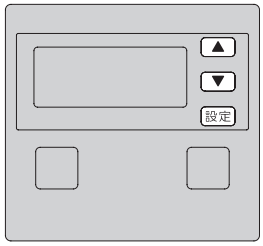


○その他の消耗部品 ： パッキン類・ホース類・ポンプ・三方弁・その他弁関係

上記消耗部品の交換は当社の純正部品をご使用ください。

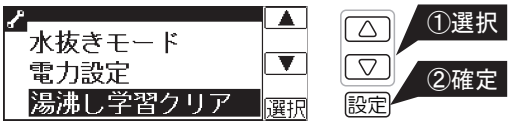
湯沸し量を再学習するとき

■この給湯機は、お湯の使用量を学習し、使用状況に合わせて湯沸しを行います。
■家族構成が変わるなどにより、お湯の使用量が急に増えて湯量が不足する場合は、学習した使用量をクリアし、再学習を行ってください。



1 設定 を押し、【その他設定】を選びます。

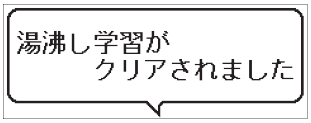
2 【湯沸し学習クリア】を選びます。



3 【する】を選びます。

選択内容	する、しない

4 設定が完了します。

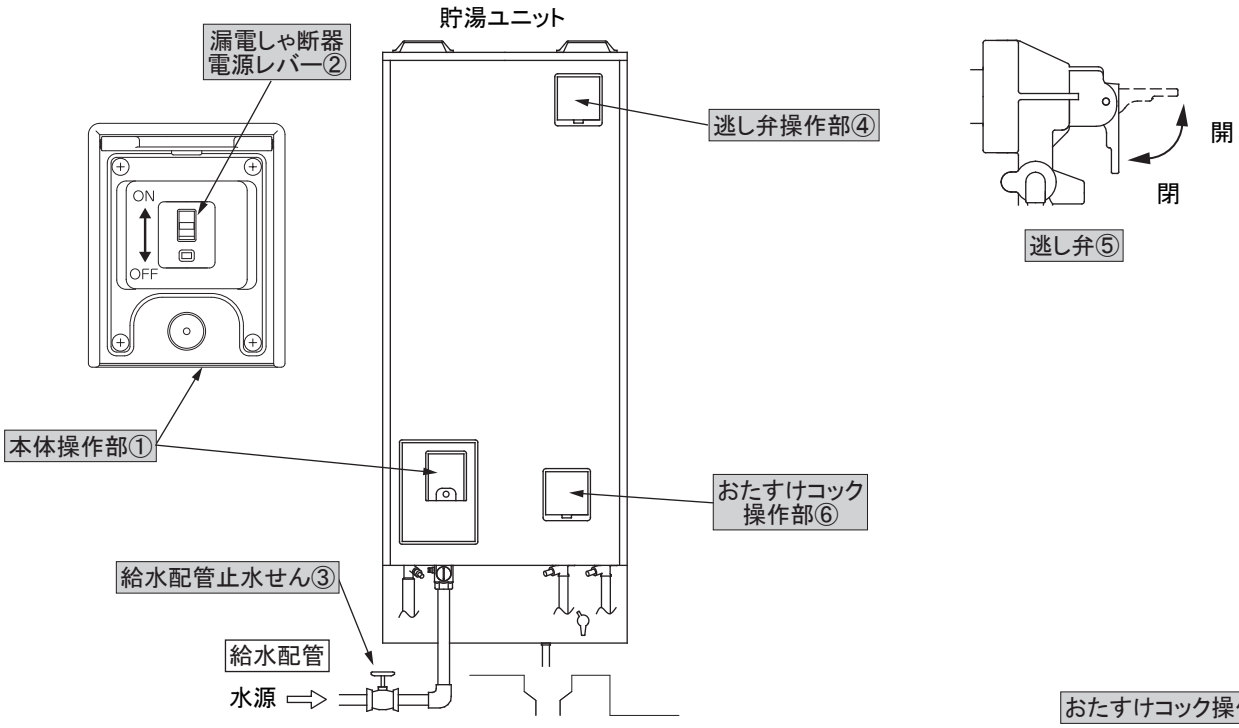


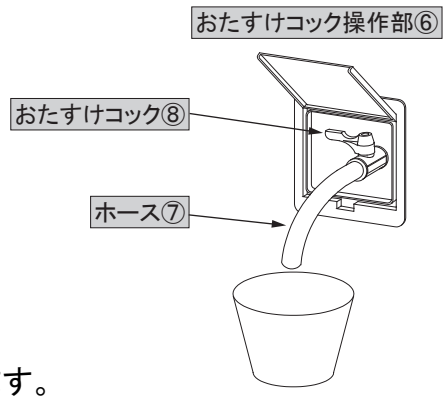
【お知らせ】
○湯沸し学習クリア後2日間は、使用量に関係なく夜間全量湯沸しします。
○湯沸し学習クリア後1週間は、夜間時間帯以外にも湯沸し（学習追加沸増し）をすることがあります。
その場合、コントローラに 沸増 が表示されます。
○湯沸し学習クリアをすると、使用湯量チェックの、今日の使用湯量および曜日別使用湯量のデータがリセットされます。
使用湯量チェックについては ➡ P.29

おたすけコックを使うとき

■貯湯ユニットの内部には、おたすけコックの水せんがあります。
■万一の非常時には、おたすけコックの水せんからタンクの水（湯）を出して使用することができます。

⚠警告	おたすけコックから熱いお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。





1. 本体操作部①のカバーを開けて、
漏電しゃ断器電源レバー②を「OFF（切）」にします。

2. 給水配管止水せん③を閉めます。

3. 逃し弁操作部④のカバーを開けて、逃し弁⑤のレバーを上げます。

4. おたすけコック操作部⑥のカバーを開けて、ホース⑦を引き出します。

5. ホース⑦の下にバケツなどを準備し、おたすけコック⑧のレバーを開けます。
タンク内の水（湯）が出てきます。

6. 使用後は、おたすけコック⑧を閉め、ホース⑦から水（湯）が出てこないことを確認してから
ホース⑦を戻してください。

7. おたすけコック操作部⑥のカバーを閉じてください。

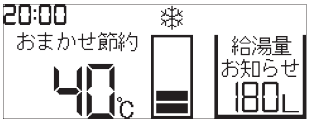
【お知らせ】
○給湯機を再使用するときは ➡ P.12

凍結のおそれがあるとき

■冬期など、凍結のおそれがあるときは、凍結予防対策を行ってください。
■給湯機は気温が低くなると凍結予防運転を行います。

ヒートポンプ凍結予防運転について

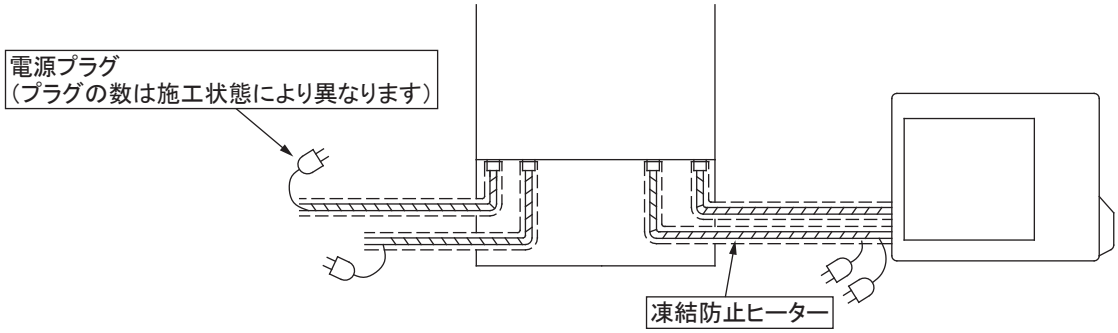
・ 気温が低くなると、製品やヒートポンプ配管の凍結予防運転を行います。
・ ヒートポンプ凍結予防運転には、湯沸し凍結予防運転（湯沸し動作）と循環凍結予防運転（循環動作のみ）があり、湯沸し凍結予防運転中はコントローラに右の画面のような ❄ が表示されます。



※湯沸し凍結予防運転が動作しているとき、残湯量表示が増えることがあります。
※凍結のおそれがある場合は、凍結防止ヒーターでの凍結予防も行ってください。

凍結防止ヒーターの使用

・ 給湯機は凍結予防運転を行いますが、冬期は寒冷地だけでなく、温暖な地域でも思わぬ寒波で凍結するおそれがあります。
・ 配管が凍結すると、給湯機や配管が破損することがあります。
・ 凍結防止ヒーターが施工されている場合、凍結防止ヒーターによって凍結を予防します。寒冷時になる前にすべての凍結防止ヒーターの差し込みプラグをコンセントに差し込んでください。
・ 凍結しない季節はプラグをコンセントから抜いておいてください。
・ 凍結防止ヒーターが施工されているか不明なときは、お買い上げの据付工事店（販売店）へご確認ください。



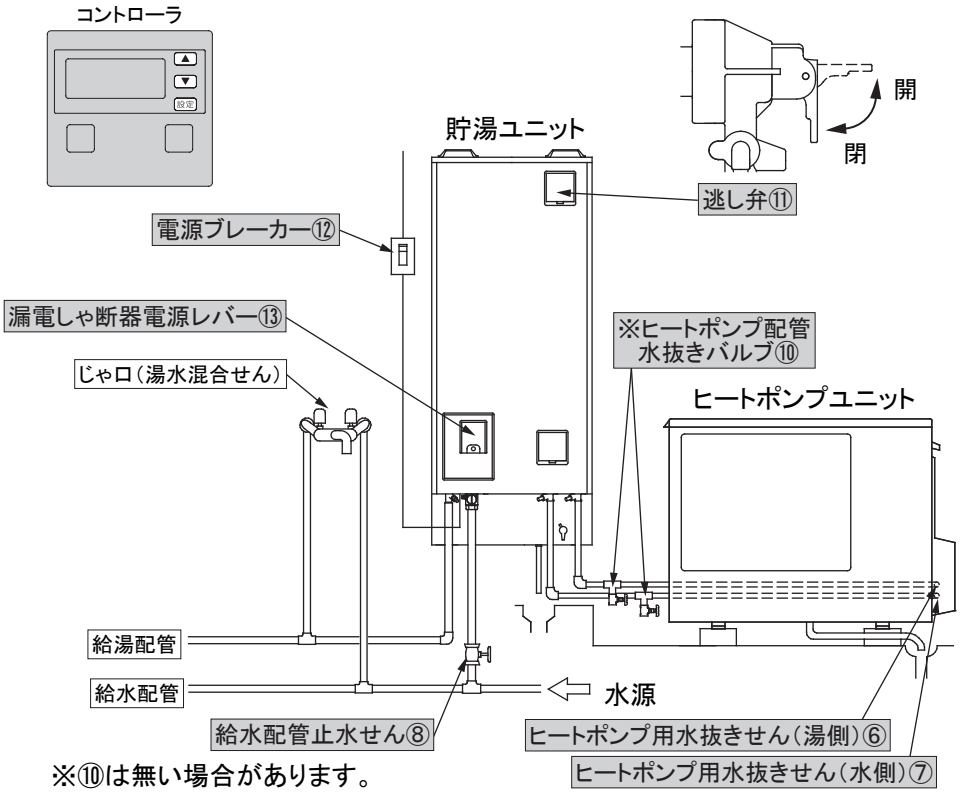
ご注意

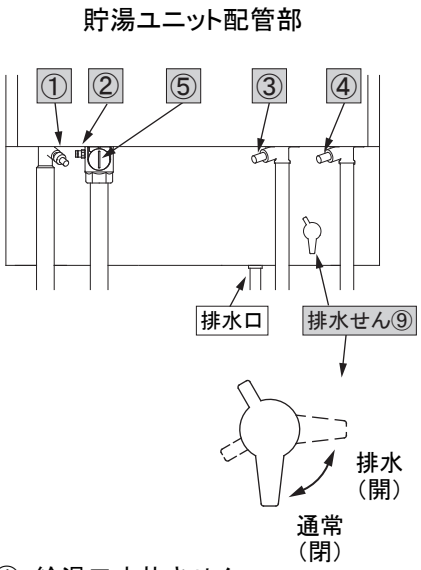
○凍結のおそれがあるときは、ウィークリー湯沸し（ ➡ P.22）や湯沸し停止日数（ ➡ P.23）の設定を「切」や「解除」にしてください。
○配管に水が無い状態では、凍結防止ヒーターに通電しないでください。

使用しないとき／水抜きするとき

■長期間（1か月以上）使用しないときや、貯湯ユニットの漏電しゃ断器を「OFF（切）」にするときは、凍結によるタンクや配管の破損・水漏れの防止と、タンク内を清潔に保つために水抜きをしてください。

⚠警告	水抜き操作時は、熱いお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。





①：給湯口水抜きせん
②：給水口水抜きせん
③：HP水側配管水抜きせん
④：HP湯側配管水抜きせん
⑤：給水口ストレーナ

長期不使用時 （給湯機を1か月以上使用しないとき）

ご注意

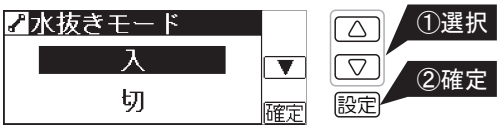
○熱いお湯を流しますと排水管を損傷するおそれがありますので、じゃ口（湯水混合せん）を開き、お湯が出なくなるまで（コントローラに「お湯がありません」と表示されるまで）お湯を出してから水抜きを行ってください。お湯を出した後は、じゃ口（湯水混合せん）を閉じてください。

【お知らせ】
○当日お湯を使用する予定がない場合は、前日に湯沸し停止日数を「2日」に設定しておくことをおすすめします。
湯沸し停止日数については ➡ P.23

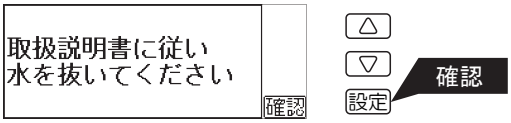
1 設定 を押し、【その他設定】を選びます。

2 【水抜きモード】を選びます。

3 【入】を選びます。



4 内容を読み 設定 を押します。



5 給水配管止水せん⑧を閉じてから、逃し弁⑪のレバーを「開」にします。

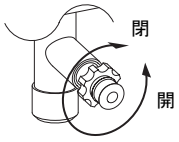
6 排水せん⑨を「排水」の向きにします。

排水するのに1時間ほどかかります。

7 タンクの排水が終わったら、以下の順に給湯機の水抜きをします。

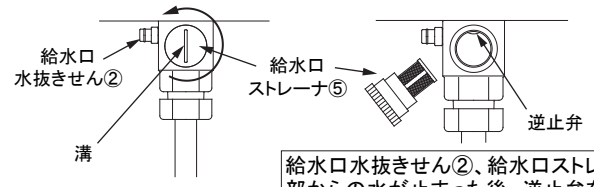
●貯湯ユニット

1. 水抜きせん（①～④）を開けます。
   ※水抜きせんは1周程度回して開けます。



※取り付け位置、形状は場所により異なります。

2. 給水口ストレーナ⑤を取りはずし、逆止弁を押し上げます。



給水口ストレーナ⑤はコインなどを溝に差し入れ左に回して取りはずします。

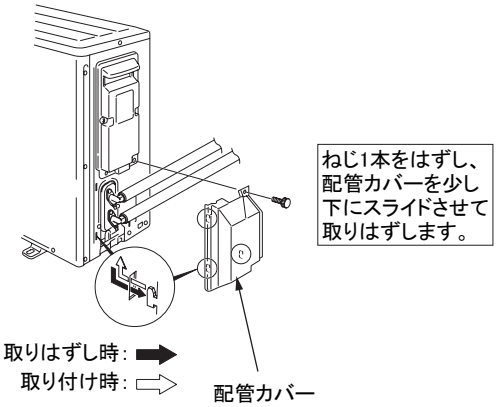
給水口水抜きせん②、給水口ストレーナ⑤部からの水が止まった後、逆止弁を水が出なくなるまで押し上げ続けてください。
※逆止弁は口元から約3cm奥の上部にあります。

必要に応じて洗面器などで水を受けてください。ヒートポンプ配管に水抜きバルブ⑩が設けられている場合は、開けて配管内の水抜きを行ってください。

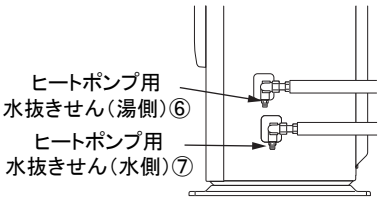
●ヒートポンプユニット

⚠警告	運転直後はヒートポンプ用水抜きせんが熱くなっていることがあります。 十分に時間をおいて操作してください。

1. 配管カバーを取りはずします。
2. 水抜きせん（⑥、⑦）を開けます。
   ※水抜きせんは1周程度回して開けます。

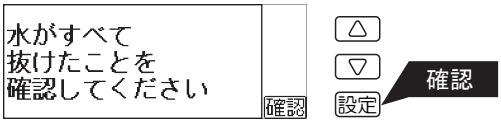


●ヒートポンプユニット側面図



●水抜きせんの操作

8 内容を読み 設定 を押します。

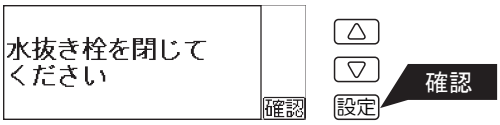


水抜きモード運転が始まります。

水抜きモード運転中
※約３０分かかります

水抜きモード運転は30分ほどで終わります。

9 水抜きモード運転終了後、すべての水抜きせん・ストレーナ・水抜きバルブ・排水せんを閉じ、設定 を押します。



10 電源ブレーカー⑫と漏電しゃ断器電源レバー⑬を「OFF（切）」にして、配管カバーを取り付けます。

水抜き完了
電源ブレーカーと
漏電しゃ断器を「切」
にしてください

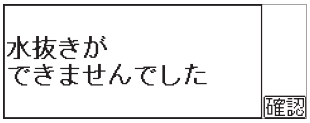
再びご使用になるときは ➡ P.12

【お知らせ】

○ 3 で選択後、次の表示が出たときは、画面が切り替わるまでお待ちください。

実行中の動作を
終了しています
（１０分程度かかる
場合があります）

○ 8 の操作後、次の表示が出たときは、給湯機にエラーが発生している場合があります。エラー内容を確認し、「コントローラにエラーが表示されたとき」（ ➡ P.44）を参照してください。



使用しないとき／水抜きするとき（前ページからの続き）

短期不使用時（給湯機を1か月未満で使用しないとき）

1. 電源ブレーカー⑫と漏電しゃ断器電源レバー⑬を「OFF（切）」にします。
2. 給水配管止水せん⑧を閉じます。

再びご使用になるときは、タンク内の水を入れ替えてからご使用ください。

ご注意

凍結のおそれがあるときは、1か月未満の使用しないときでも「長期不使用時」の項に従ってください。➡ P.40

停電・断水・水道工事のとき

停電のとき

・停電中に給湯することはできますが、給湯温度を調節することができないため、設定した温度にならずに、高温のお湯や水が出る場合があります。

⚠警告	やけどの原因になりますので使用する際は、必ず湯温を確かめてから使用してください。

・停電復帰後、コントローラの現在時刻を確認してください。

ご注意

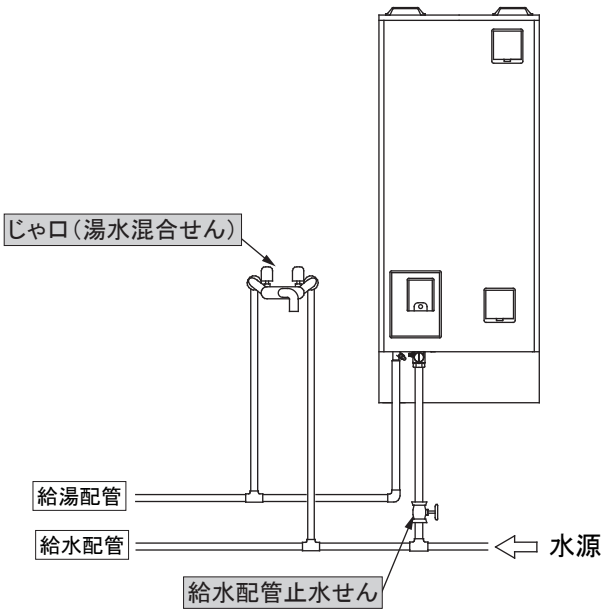
○現在時刻が設定されていないと、湯沸しできません。
○現在時刻が正しく設定されていないと電気料金が割高になることがあります。
現在時刻については ➡ P.15

断水・水道工事のとき

・断水や水道工事のときは、給水配管止水せんを閉じてください。
・断水や水道工事終了後、じゃ口（湯水混合せん）の水側を開けて、濁った水が出なくなったのを確認してから給水配管止水せんを開けてください。

ご注意

○断水時や給水配管止水せんを閉じるとタンク内に圧力がかからず、エラーが表示されることがあります。
エラー内容の確認および処置方法については ➡ P.44
○濁った水が貯湯ユニット内に入ると、給水ロストレーナを詰まらせてお湯の出が悪くなったり、タンク内のお湯を濁らせてしまう場合があります。また、故障の原因になります。



仕様

システム	品番※1	EQS2009U-NS	EQS2009U-NE	EQS3709U-NS	EQS3709U-NE
	仕様	一般地向標準仕様	一般地向耐塩害仕様	一般地向標準仕様	一般地向耐塩害仕様
	タイプ	給湯専用 （給湯温度設定機能付き）			
	適用電力制度	時間帯別電灯・季節別時間帯別電灯 （通電制御型）			
	電源	単相200V 50-60Hz			
	最大電流	16A			
	沸き上げ温度範囲	約65℃ ～ 約90℃			
	冬期高温沸き上げ温度	約90℃			
	着霜期高温沸き上げ温度	約90℃			
	年間給湯効率(JIS)※2 ［区分名］	2.8 ［34］	2.8 ［34］	3.2 ［19］	3.2 ［19］
	給水器具認証番号	A-457（公益社団法人日本水道協会）			
貯湯ユニット	品番※1	EC-2009KU-NS	EC-2009KU-NE	EC-3709KU-NS	EC-3709KU-NE
	タンク容量	200L		370L	
	非常用有効貯水量	140L		280L	
	制御用消費電力	最大39W ～ 3W			
	凍結防止ヒーター	40W			
	設置区分	屋内・屋外兼用			
	設置可能最低外気温度	-10℃			
	水側最高使用圧力 / 減圧弁設定圧力	190kPa / 170kPa（高圧力型）			
	給湯温度	水温、30℃、35℃ ～ 50℃（1℃刻み）、55℃、60℃			
	外形寸法 （幅×奥行×高さ）	500×580×1800mm		630×730×1860mm	
	質量 （満水時）	54kg (254kg)		66kg (436kg)	
ヒートポンプユニット	品番	THP-MU452-A	THP-MU452-A-BS	THP-MU452-A	THP-MU452-A-BS
	設置区分	屋外専用			
	設置可能最低外気温度	-10℃			
	中間期標準加熱能力※4 / 消費電力	4.5kW / 0.99kW			
	中間期標準運転電流※4	5.4A			
	冬期高温加熱能力※3※5 / 消費電力	4.5kW / 1.50kW			
	運転音※7（中間期※4 / 冬期※5）	38dB / 43dB			
	冷媒名称/封入量	R744（CO_2） / 0.78kg			
	設計圧力	高圧：14MPa / 低圧:8.5MPa			
	外形寸法 （幅×奥行×高さ）※突起物除く	800×285×715mm			
	質量	44kg			

システム	品番※1	EQS3709U-KS	EQS4609U-NS	EQS4609U-NE	EQS4609U-KS
	仕様	寒冷地向標準仕様	一般地向標準仕様	一般地向耐塩害仕様	寒冷地向標準仕様
	タイプ	給湯専用 （給湯温度設定機能付き）			
	適用電力制度	時間帯別電灯・季節別時間帯別電灯 （通電制御型）			
	電源	単相200V 50-60Hz			
	最大電流	19A	17A		19A
	沸き上げ温度範囲	約65℃ ～ 約90℃			
	冬期高温沸き上げ温度	約90℃			
	着霜期高温沸き上げ温度	約90℃			
	寒冷地冬期高温沸き上げ温度	約90℃	―		約90℃
	年間給湯効率(JIS)※2［区分名］	3.2	3.2 ［19］	3.2 ［19］	3.2
	寒冷地年間給湯効率(JIS)※2［区分名］	2.7 ［23］	―	―	2.7 ［23］
	給水器具認証番号	A-457（公益社団法人日本水道協会）			
貯湯ユニット	品番※1	EC-3709KU-KS	EC-4609KU-NS	EC-4609KU-NE	EC-4609KU-KS
	タンク容量	370L	460L		
	非常用有効貯水量	280L	370L		
	制御用消費電力	最大39W ～ 3W			
	凍結防止ヒーター	40W			
	設置区分	屋内・屋外兼用			
	設置可能最低外気温度	-15℃	-10℃		-15℃
	水側最高使用圧力 / 減圧弁設定圧力	190kPa / 170kPa（高圧力型）			
	給湯温度	水温、30℃、35℃ ～ 50℃（1℃刻み）、55℃、60℃			
	外形寸法 （幅×奥行×高さ）	630×730×1860mm	630×730×2165mm		
	質量 （満水時）	66kg (436kg)	74kg (534kg)		
ヒートポンプユニット	品番	THP-MUK452-A	THP-MU602-A	THP-MU602-A-BS	THP-MUK602-A
	設置区分	屋外専用			
	設置可能最低外気温度	-25℃	-10℃		-25℃
	中間期標準加熱能力※4 / 消費電力	4.5kW / 0.97kW	6.0kW / 1.35kW		6.0kW / 1.32kW
	中間期標準運転電流※4	5.6A	7.2A		7.4A
	冬期高温加熱能力※3※5 / 消費電力	4.5kW / 1.50kW	6.0kW / 2.00kW		6.0kW / 2.00kW
	寒冷地冬期高温加熱能力※6	4.5kW	―		6.0kW
	運転音※7（中間期※4 / 冬期※5）	38dB / 43dB	42dB / 45dB		
	冷媒名称/封入量	R744（CO_2） / 0.84kg	R744（CO_2） / 0.78kg		R744（CO_2） / 1.10kg
	設計圧力	高圧：14MPa / 低圧:8.5MPa			
	外形寸法 （幅×奥行×高さ）※突起物除く	800×285×715mm			
	質量	46kg	44kg		50kg

●運転性能は、日本工業規格JIS C9220：2011に基づく数値です。

※1 漏水検知仕様は、システム品番、貯湯ユニット品番の末尾に「R」が追加されます。BL認定品は、システム品番、貯湯ユニット品番の末尾に「-BL」が追加されます。

※2 年間給湯効率は日本工業規格JIS C9220：2011に基づき、ヒートポンプ給湯機を運転した時の単位消費電力量あたりの給湯熱量を表したものです。（タンク容量200L機種は、JIS少人数給湯モードにおける条件下となります。）
運転モード：「おまかせ節約」、着霜期給湯モード性能試験時の沸き上げ温度65℃、冬期給湯モード性能試験時の沸き上げ温度65℃。
夜間消費電力量比率：タンク容量200L機種…55%、タンク容量370L～460L機種…80%。

$$年間給湯効率＝\frac{1年で使用する給湯に係る熱量}{1年で必要な消費電力量}$$

※3 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。

※4 中間期標準条件[外気温度（乾球温度/湿球温度）16℃/12℃、給水温度17℃、沸き上げ温度65℃]

※5 冬期高温条件[外気温度（乾球温度/湿球温度）7℃/6℃、給水温度9℃、沸き上げ温度90℃]

※6 寒冷地冬期高温条件[外気温度（乾球温度/湿球温度）-7℃/-8℃、給水温度5℃、沸き上げ温度90℃]

※7 運転音はJIS C9220：2011に準拠し、反響音の少ない無響室で測定した値です、実際に据付けた状態で測定すると、周囲の騒音や反響を受け、表示値より大きくなるのが普通です。

コントローラにエラーが表示されたとき

■コントローラにエラーが表示された場合は、下記の処置方法に従って処置を行ってください。

＜エラー表示例＞

■お知らせ表示

下記に従って処置しても、再び表示したり不具合がある場合は、お買上げの販売店にご連絡ください。

エラー表示	原　因	処　置　方　法	エラー表示の解除方法
E721 E722 C734 HC03 HC19 HC20 HC21 HC30	貯湯ユニットの排水せんがきちんと「通常」の位置になっていない可能性があります。 排水せんの場所を確認するときは➡P.7	貯湯ユニットの排水せんをしっかり「通常」の位置にしてください。	貯湯ユニットの漏電しゃ断器電源レバーを一旦「OFF（切）」にして、再び「ON（入）」にします。
	配管が凍結している可能性があります。	解凍されるまでお待ちください。 エラーが解消されないときは販売店にご連絡ください。	

■漏水検知仕様（品番にRがつくもの）のみに表示されるエラー表示

下記の処置をして、お買い上げの販売店にご連絡ください。

エラー表示	内　容	処　置　方　法
E891	貯湯ユニット内で水漏れしている可能性があります。	200V電源ブレーカーを切り、給水配管止水せんを閉じてから（凍結のおそれがある時期は、200V電源ブレーカーを切らずに）、お買上げの販売店にご連絡ください。

■その他の表示

下記の処置をして、お買い上げの販売店にご連絡ください。

エラー表示	内　容	処　置　方　法
C＊＊＊ E＊＊＊ U＊＊＊ H＊＊＊	給湯機の点検が必要です。	200V電源ブレーカーを切り、給水配管止水せんを閉じてから（凍結のおそれがある時期は、200V電源ブレーカーを切らずに）、お買上げの販売店にご連絡ください。 その際は、製品名・品番・症状・エラー表示内容を合わせてご連絡ください。

故障かな？と思ったら

■次のような症状が出ている場合には、給湯機の故障でない場合があります。
修理をご依頼される前に、以下の点をご確認ください。

貯湯ユニット・ヒートポンプユニット

こんなときは	確認内容と処置
排水口から お湯（水）が出ている	・湯沸し中ではありませんか？ ⇒湯沸し中に貯湯ユニットの排水口よりお湯（水）が出るのは故障ではありません。タンク内の水がお湯になるときの膨張水が排水口より排出されます。一晩で約10L程度排水されます。
	・湯沸し中以外にお湯（水）が出ている場合は、逃し弁の確認を行ってください。 ➡ P.34 お湯（水）が止まらないときは、販売店にご相談ください。
湯沸ししない	・200V電源ブレーカーまたは貯湯ユニットの漏電しゃ断器が「OFF（切）」になっていませんか？ ⇒「OFF（切）」になっているときは、「ON（入）」にしてください。 ➡ P.12 ※2、3度続く場合は故障のおそれがありますので、販売店にご相談ください。
	・本日湯沸し休止、湯沸し停止日数、ウィークリー湯沸しが設定されていませんか？ ⇒設定を確認してください。 （本日湯沸し休止 ➡ P.20、湯沸し停止日数 ➡ P.23、ウィークリー湯沸し ➡ P.22）
	・コントローラの現在時刻は設定されていますか？（合っていますか？） ⇒現在時刻が設定されていない場合やずれている場合は、正しく設定してください。 ➡ P.15
	・夜間時間開始時に残湯がある場合や、夜間の湯沸し目標湯量が少ない場合は、自動的に湯沸し開始時刻を遅らせて、夜間時間帯終了時に沸き上がるようにします。（ピークシフト機能）
翌朝になってもタンク 満タンまで湯沸ししていない	・お客様の過去の使用量を学習し、必要な湯量を計算して湯沸しするため、タンク満タンまで湯沸ししない場合があります。
ヒートポンプユニットから 水や湯気が出る	・ヒートポンプユニット背面のアルミ部に霜がついていませんか？ ⇒結露した水や霜取りのため、水や湯気が出ます。
	・湯沸し中ではありませんか？ ⇒ヒートポンプユニットが大気から熱を吸収するときに、結露した水がドレン口より排水されます。
ヒートポンプユニットの 底面から水が漏れている	・ドレンホースに波打ちや上り勾配、詰まりがありませんか？（寒冷地向標準仕様の場合を除く） ⇒ドレンホースに波打ちがなく、下り勾配になっていることを確認してください。
	・外気温や湿度によっては、底面が結露することがあります。異常ではありません。
ヒートポンプユニットが 運転・停止を繰り返している	・気温が低いときは、凍結予防運転や熱交換器の除霜のため、ファンの運転・停止を繰り返します。
ヒートポンプユニットの 背面のアルミ部分が白くなる	・冬期運転中は、霜がつくことがあります。
ヒートポンプユニットから 音がする	・湯沸し中は運転音がします。冬期など外気温が低い環境では、運転音は大きくなる場合があります。
	・霜取り運転中は運転音が大きくなる場合があります。
本日湯沸し休止、 湯沸し停止日数を 設定しているのに湯沸しする	・外気温が低い場合は、製品や配管の凍結を予防するため、湯沸しを行う場合があります。 ➡ P.39
ウィークリー湯沸しを 設定しているのに湯沸しする	・外気温が低い場合は、製品や配管の凍結を予防するため、湯沸しを行う場合があります。 ➡ P.39
	・ コントローラの現在時刻（年・月・日を含む）は合っていますか？ ⇒現在時刻（年・月・日を含む）がずれている場合は、正しく設定してください。 ➡ P.15
残湯量があるのに湯沸しする	・ 湯沸しモードが「おまかせ節約」ではありませんか？ ⇒おまかせ節約の場合、夜間時間帯以外の時間に「追加沸増し」を行います。 ➡ P.18
	・使いはじめ、または学習クリア後の学習期間中は、お湯が不足しないように湯沸しを行います。 ➡ P.18、P.37
	・お客様の過去の使用量により、お湯が不足しないように湯沸しを行います。
	・外気温が低い場合は、製品や配管の凍結を予防するため、湯沸しを行う場合があります。 ➡ P.39
夜間指定量湯沸しでお湯の 量を指定しているのに、朝の 残湯目盛数が異なる	・季節の移り変わりやご使用状況によって、タンクへの給水温度や湯沸しの温度は変動します。このため、タンクに貯めておく必要なお湯の量は常に一定とはならず、沸き上がり時の残湯目盛数が変わる場合があります。

給湯

こんなときは	確認内容と処置
お湯から油が出る お湯が臭い	・はじめてご使用のとき、お湯や水に油が浮くことがあります。これは、配管工事の際の油が残っているためで、約1週間くらい使用すると消えて正常になります。
お湯が白く濁って見える	・水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで急速に減圧されるため、細かい気泡となって出てくる現象で、全くの無害です。
お湯が出ない お湯の出が悪い	・断水していませんか？ ⇒最寄りの水道局にお問い合わせください（断水が解除されるまでお待ちください）。
	・給水配管止水せんが閉じていませんか？ ⇒給水配管止水せんを開けてください。➡ P.12
	・配管が凍結していませんか？ ⇒解凍されるまでお待ちください。復帰しない場合は販売店にご相談ください。
	・給湯を2か所以上同時に使用していませんか？ ⇒複数同時に使用するとお湯の勢いは弱くなります。
	・サーモスタット式湯水混合せんを使用していませんか？ ⇒サーモスタット式湯水混合せんを使用するときは、コントローラの給湯温度を使用するお湯の温度よりも高く設定していただくことでお湯の出が改善する場合があります。➡ P.27
	・給水口ストレーナが目詰まりしていませんか？ ⇒給水口ストレーナの清掃をしてください。➡ P.35
給湯温度が安定しない	・給湯の出湯、停止を繰り返し行っていませんか？ ⇒給湯開始直後は、出湯温度が安定しないことがあります。
お湯が不足する	・普段より多くお湯を使用していませんか？ ⇒普段の使用量に合わせて湯沸しするため、急に多くお湯を使用するとお湯が不足する場合があります。 ・お湯を追加で沸かす場合は、沸増しをしてください。➡ P.19 ・来客等で一時的にお湯の使用量が増えることが分かっている場合は、前日に夜間指定量湯沸しを満タンに設定してください。➡ P.21 ・家族が増えたなどで恒久的に使用量が増える場合は、湯沸し学習クリアを行ってください。➡ P.37 ・湯切れ沸増し量を設定すると、残湯量が設定量を下回ったとき、自動で沸増しを行います。➡ P.24
	・前日の夜間時間帯にお湯を使用していませんか？ ⇒夜間時間帯にお湯を使用すると、翌朝お湯が沸き上がらないことがあります。夜間不足分沸増しを「許可」に設定すると、不足分を追加で沸増しします。➡ P.24 または、必要に応じて沸増しをしてください。➡ P.19
	・湯沸し中以外のときに、排水口からお湯（水）が流れていませんか？ ⇒逃し弁の確認を行ってください。➡ P.34 お湯（水）が止まらないときは、販売店にご相談ください。
お湯がぬるい 水が出る	・画面に「お湯がありません」と表示されていませんか？ ⇒残湯が残っていない場合や、タンクのお湯の温度が低い場合は、設定温度のお湯を出すことができない場合があります。必要に応じて、沸増しをしてください。➡ P.19
	・サーモスタット式湯水混合せんを使用していませんか？ ⇒サーモスタット式湯水混合せんを使用するときは、コントローラの給湯温度を使用するお湯の温度よりも高く設定していただくことで温度が安定する場合があります。
	・配管が長いとき、放熱のため設定温度より低い温度のお湯が出る場合があります。
給湯量お知らせをしない	・じゃ口（湯水混合せん）からの流量が少なく（2L/分以下）ありませんか？ ⇒給湯機からの流量が少ないとき、給湯量お知らせを行いません。給湯しているとき、コントローラに連続して が表示されていることを確認してください。➡ P.28
	・じゃ口（湯水混合せん）が水側になっていませんか？ ⇒給湯量お知らせ設定量には、じゃ口（湯水混合せん）の水側から出る水量は含まれません。➡ P.28
給湯量お知らせ設定量と、実際に給湯した量がずれる	・じゃ口（湯水混合せん）からお湯と水を混ぜて出湯していませんか？ ⇒給湯量お知らせ設定量には、じゃ口（湯水混合せん）の水側から出る水量は含まれません。お湯と水を混ぜて給湯する場合、給湯量は設定量よりも多くなります。➡ P.28
	・他の場所でお湯を使用していませんか？ ⇒給湯量は、お湯を使用しているすべてのじゃ口（湯水混合せん）の合計となります。浴槽への湯はりなどで使用する場合、他の場所で同時にお湯を使用すると、少なくなることがあります。➡ P.28

コントローラ

こんなときは	確認内容と処置
何も表示されない	・200V電源ブレーカーまたは本体の漏電しゃ断器が「OFF（切）」になっていませんか？ ⇒「OFF（切）」になっているときは、「ON（入）」にしてください。 ➡P.12 ※2、3度続く場合は故障のおそれがありますので、販売店にご相談ください。
	・停電していませんか？ ⇒停電が解除されるまでお待ちください。
バックライトが 消える・勝手に点灯する	・バックライトの設定が「1分自動消灯（初期設定）」、「5分自動消灯」になっていませんか？ ⇒常時バックライトを点灯させるときは、「常時点灯」に設定してください。 ➡P.31
	・給湯バックライトが「入」になっていませんか？ ⇒給湯時にバックライトを点灯させないようにするときは、「切」に設定してください。 ➡P.31
表示が薄い（濃い）	・コントローラのコントラストを設定してください。 ➡P.30
スイッチ操作音が 出ない	・スイッチ操作音が「切」になっていませんか？ ⇒スイッチ操作音を「入」に設定してください。 ➡P.32
文字ガイドが表示 されない	・文字ガイドが「切」になっていませんか？ ⇒文字ガイドを「入」に設定してください。 ➡P.30
使用湯量チェックで 表示される使用湯量が 実際の使用湯量と異なる	・使用湯量は43℃換算で表示されます。 ➡P.29
お湯を使用していないのに のこり湯量／残湯表示が減る	・お湯を使用していない場合でも、タンクからの放熱により、のこり湯量や残湯表示は変化する場合があります。
	・湯沸し中以外のときに、排水口からお湯（水）が流れていませんか？ ⇒逃し弁の確認を行ってください。 ➡P.34 お湯（水）が止まらないときは、販売店にご相談ください。
「お湯がありません」が ずっと表示されている	・タンクの残湯が無くなると、「湯切れ注意」表示とともに、「お湯がありません」と表示されます。 夜間湯沸しや沸増しなどにより、タンクの残湯が1目盛り以上点灯するまで表示は消えません。
「湯沸し準備中」が 表示されている	・電源を入れてからはじめて湯沸しするときに表示されます。通常数分程度で消えます。
「湯沸しメンテナンス運転中」 が表示されている	・湯沸ししない期間が続いた場合、給湯機の保護のため、固着防止運転を行います。通常数分程度で消えます。

アフターサービス

【サービス（点検・修理）を依頼される前に】

コントローラにエラーが表示されたとき（ ➡ P.44）および故障かな？と思ったら（ ➡ P.45～47）の項をもう一度ご確認ください。
確認の上でそれでも不具合のある場合あるいは不明な場合は、ご自分で修理なさらないでお買い上げの販売店、またはフリーダイヤル（ ➡ 裏表紙）へご連絡ください。

【保証について】

・本製品には保証書がついています。（別添）
・「保証書」はお買い求めの販売店が、お買い上げ日など所定事項を記入しますので、記載内容をご確認いただき、保証規定をよくお読みのうえ大切に保管してください。
・保証期間中は保証書の規定に従って、修理をさせていただきます。
・保証期間内でも有料になることがありますので、保証書の内容をよくご確認ください。

保証期間は、お買い上げ日より
本体（貯湯ユニット）:1年間 [BL認定品は2年間]
本体（ヒートポンプユニット）:2年間
タンク（貯湯ユニット内）:5年間
冷媒系統（ヒートポンプユニット内）:3年間です。

【補修用性能部品の保有期間について】

・この製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。（BL認定品は10年です。）
・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービス（前ページからの続き）

【故障・修理の際の連絡先】

○保証期間経過後、修理を依頼されるときは、まずお買い上げの販売店に相談してください。
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

○アフターサービスのご依頼や不明な点のお問い合わせは、まずお買い上げの販売店へご連絡ください。
お買い上げの販売店連絡先は、コントローラにて確認することができます。メニュー画面より「その他設定」を選び、「販売店連絡先」を選ぶと右記の画面がコントローラに表示されます。販売店連絡先は、登録されている場合のみ電話番号が表示されます。
販売店連絡先がご不明な場合は、下記フリーダイヤルにご連絡ください。

販売店連絡先
0000-000-000
タカラスタンダード修理受付
0 120-557-9 10

登録されている場合

販売店連絡先
登録されていません
タカラスタンダード修理受付
0 120-557-9 10

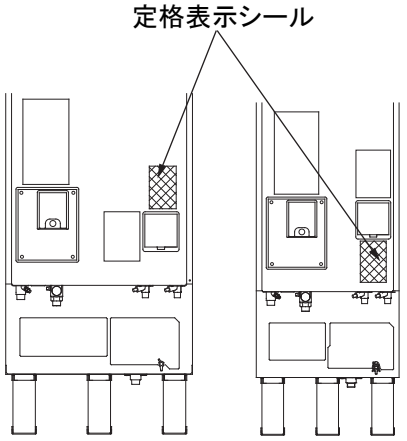
登録されていない場合

0120－557－910　受付時間9:00～18:00（土日祝、夏期・年末年始休業日を除く）

※PHS・携帯電話・IP電話等で一部通話ができない場合があります。

【修理を依頼される際のお願い】

アフターサービスをお申し付けの際は、次のことをお知らせください。
(1)製品名、品番、製造番号（定格表示シールに記載）
(2)異常の状況
(3)ご購入年月日
(4)お名前、ご住所、お電話番号



【修理料金のしくみ】

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する料金です。

【廃棄について】

この商品を廃棄する場合は、必ず公的な許可を受けている処理業者にご依頼ください。

タカラスタンダードお客様サポートサイト　http://www.takara-standard.co. jp/support/index.html

インターネットでの修理のご依頼も可能です。
〈修理のご依頼〉 修理のご依頼をインターネットより受け付けております。
修理受付後、弊社修理窓口よりお電話でご連絡させていただきます。
〈よくあるご質問〉 お客様よりお問い合わせいただくことの多い質問をまとめています。
修理やお問い合わせの前に参考にしてください。

※お客様の個人情報について
個人情報保護に関する法令を厳守し、個人情報保護に関する基本方針を定め、関係会社を含めた全社に徹底を図っております。詳細はタカラスタンダードホームページをご覧ください。

愛情点検　※ 長年ご使用の給湯機の点検を！

こんな症状はありませんか	・設置場所が濡れている。 ・お湯がぬるい。 ・お湯が熱い。 ・漏電しゃ断器が自動的に「OFF(切)」になる。 ・湯沸し中以外に逃し弁から水が漏れる。 ・その他の異常・故障がある。	▶	ご使用中止	事故防止のため、200V電源ブレーカーを切り、給水配管止水せんを閉めてから、販売店(据付工事店)または、修理受付フリーダイヤルに点検・修理(有料)をご相談ください。

こんなときは

タカラスタンダード株式会社
本社　〒536-8536 大阪市城東区鴫野東1丁目2番1号
〈製造元〉貯湯ユニット：タカラスタンダード株式会社
〈製造元〉ヒートポンプユニット：三菱電機株式会社

16L-1
CMCK2トリセツ
1196343 1